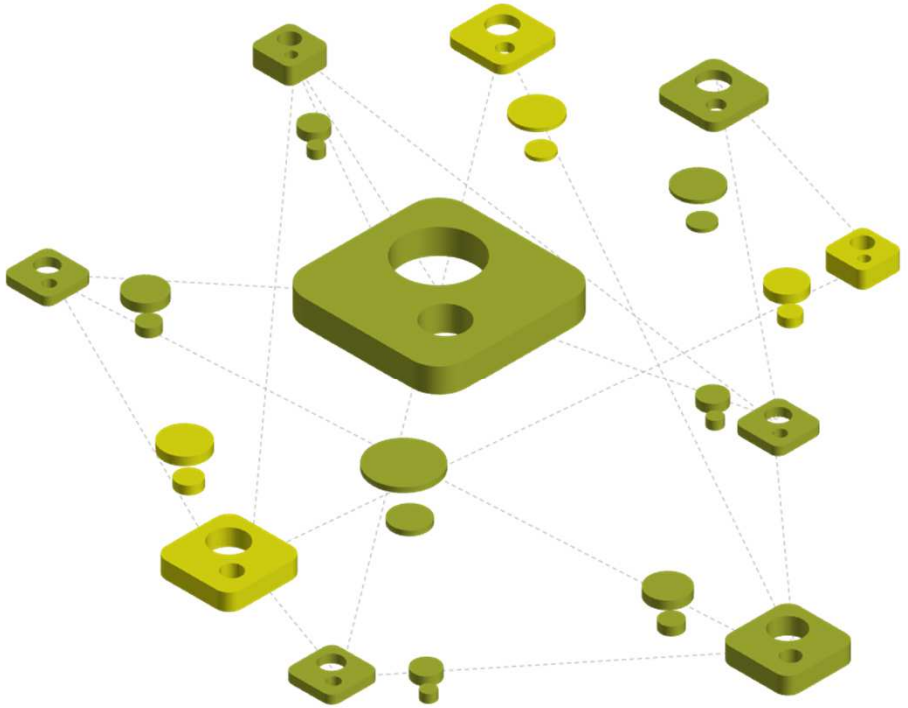
2026年12月期 第3四半期
決算説明資料



株式会社ZenmuTech

2026年11月
東証グロース市場（証券コード：338A）

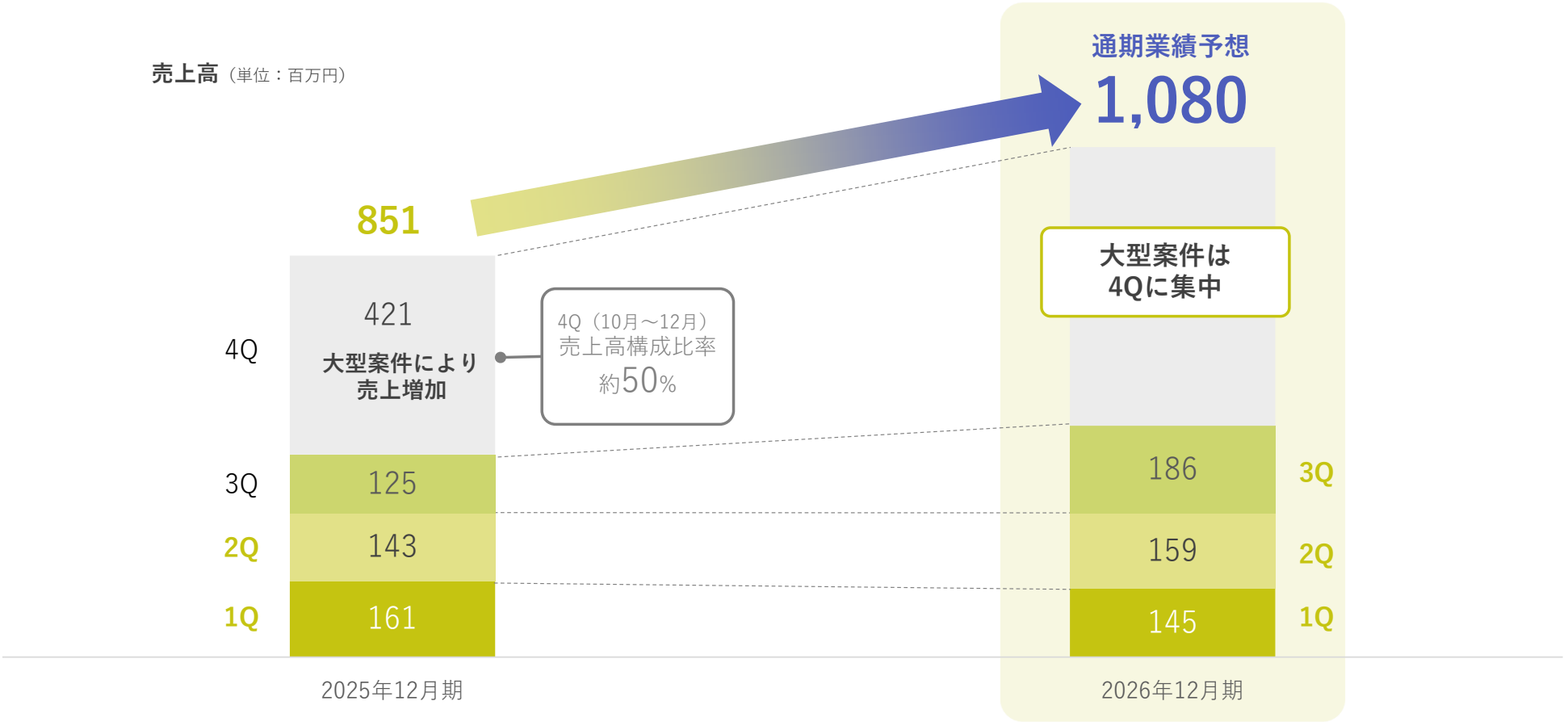
エグゼクティブサマリー

2026年12月期 第3四半期 決算概要	**第４四半期での大型案件の受注に注力　通期計画達成を目指す** ● 売上・利益ともに第4Qに増加する見込み ● 将来の成長に向けた人材投資等が増加するも計画範囲内で推移
2026年12月期 通期業績予想	**売上高は対前期比+26.8%の1,080百万円** **営業利益は対前期比＋12.1%の161百万円** ● 売上・利益ともに**下期偏重の計画**
TOPIC	● レゾナックから当社**QueryAhead®を採用**した材料開発分野における秘密計算活用の公開：実証から**実用化フェーズへ** ● 多発するサイバー攻撃に対処する**秘密分散バックアップソリューションの開発に着手**

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

2026年12月期 業績計画と第3四半期進捗状況

売上・営業利益ともに下期偏重の計画。前期も売上高の約５割は第4Qに集中。
今期も第4Qに大型案件の受注を見込む。通期達成に向けて順調に進捗。



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

中長期の業績拡大に向けて事業基盤を着実に構築

金融、医療、製造といった産業以外にも自治体、官公庁への事業展開に向け準備
現在の収益源であるZENMU Virtual Driveの販売強化も図る

3.23	台湾の BigObject と ZenmuTech Secure Data Intelligence Platform の実現に向けた 戦略的協業に関する MOU （覚書）を締結	金融 ヘルスケア 製造	金融、ヘルスケア、製造分野を中心に、新しいデータプラットフォーム開発およびグローバルにおける市場機会の創出
4.13	AIHOBS の「Digital Trust Grid」に共同開発技術を提供	医療	秘密分散技術が先進的な医療 DX 基盤に本格実装
4.23	公共自治体向けメッシュネットワーク「ナーブネット（NerveNet）」への 秘密分散技術実装に向けた共同開発を開始	自治体	平常時および災害時の自治体業務における情報漏えいリスクの低減、 安心・安全なデータ活用環境の実現を目指す
6.1	顧客紹介契約を締結 ミントウェーブが TMIP&S ※の顧客に ZEE を販売、導入支援	販売強化	個人情報保護規制やガバナンス強化が求められる企業のエンドポイントセキュリティ市場において法令対応と実効性の双方を満たす情報漏洩対策の実現という課題を解決
9.1	医療AIプラットフォーム技術研究組合（HAIP）と「秘密分散プロキシ技術」を活用したサイバーセキュリティ事業の開始で合意	医療 自治体	秘密計算技術を通信プロセスに適用。通信途中で一部の分散片が窃取された場合や攻撃を受けた場合の漏えいリスクを低減
10.26	レゾナックによるQueryAheadを採用した機密データを開示せずに企業間で材料開発データを活用できる基盤に関する事例を発表	材料開発 製造	材料開発において企業間の機密を守りながらデータを組み合わせることで物性予測の精度をあげ開発効率の向上に寄与（詳細次項）

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密計算の実用化が加速、レゾナックとの共創で具体的成果

企業間の機密を守りながら材料開発データを組み合わせることで物性予測の精度が劇的に向上

1

抱えていた課題

材料の物性を正確に予測するには、
サプライヤーの「原材料データ」と
レゾナックの「配合・評価データ」の
組み合わせが有効。

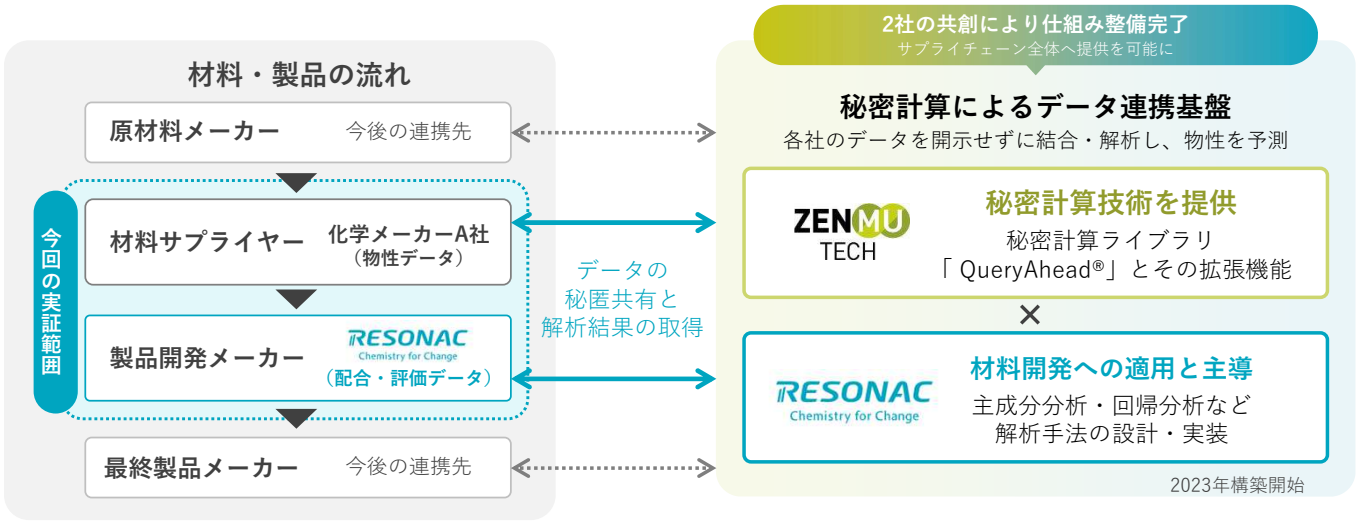
しかし、いずれも重要な機密情報

**企業間で
そのまま共有できない**

2

QueryAhead®を活用した解決策

レゾナックが構築したMI基盤にQueryAhead®を採用。双方の元データを開示せず、結合・解析。



期待効果：開発効率の向上/新材料の創出/機密保護とデータ活用を両立する新たな協議モデル

3 **実証によって得られた成果**

約78%予測誤差を削減

レゾナック単独のデータを用いた場合と比較（流動性に関する物性予測）

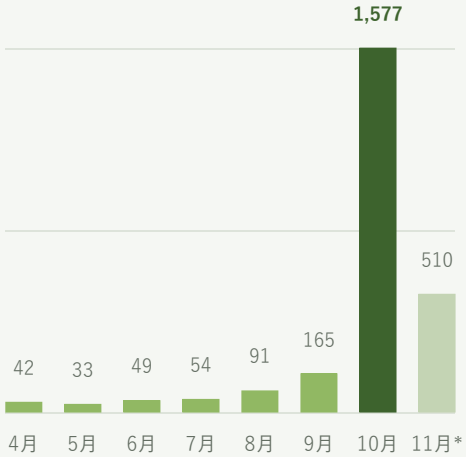
- 平文環境と同等の解析結果を再現
- 未評価サンプルの物性も事前に予測（評価実験前の性能見積が可能に）

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

市場環境：情報漏えい等の公表が急増、共通サービス／委託先を介した影響の広がりも顕在化

2026年の月別掲載公表数は夏場以降増加し、10月に大幅に増加
既存の公開サービス・共通基盤・委託先の弱点が狙われている

情報漏えい等の月別公表数(2026年)



夏場以降に増加し、10月に大幅増

*11月公表数は2026年11月11日時点のもの

公表事例から見える情報流出に至る典型的な経路

A **外部公開アプリ／API**
EC・会員管理・予約システム

B **共通サービス／委託先**
メール基盤・外部運用サーバー

C **端末／管理者権限**
委託先PC・認証情報

機密DBへの到達

データ取得
外部転送

侵入経路が多様化し、共通サービス／委託先を介して影響が広がるなか侵入後に情報を利用させない設計が重要

▼

入口の防御 ＋ 秘密分散・復元権限の分離による情報保護

出典：アットクリッピング株式会社「情報漏洩まとめ.site」https://jouhourouei.clipmaster.jp/

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

新サービス構想：秘密分散技術によるバックアップソリューションの開発に着手

サイバー攻撃による侵入を完全には防げないという現実に対し、侵入被害後の事業継続（BCP）が課題
侵入後のバックアップ削除・暗号化のリスクに対し、外部保管時の機密性と復旧可能性の両立を目指す

背景	運用上の課題	検討中のソリューション
侵入後の バックアップ削除・ 暗号化のリスク	外部保管したいが、 機密データの 持ち出しに不安 機密性の確保	秘密分散技術による 外部バックアップ 無意味化したデータの分散保管 1片が改ざんされても可用性を確保

バックアップの機密性と耐障害性を補強する構想

機密性｜漏えいリスクを低減

単一の分散片からは原本を復元できない

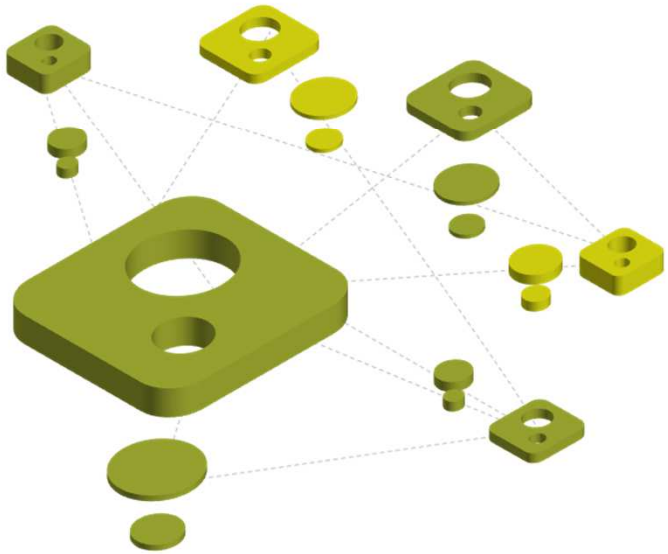
可用性｜確実な復旧手段を確保

異なる保管先へ分散し、任意の2片で復元

完全性｜改ざんからバックアップを保護

世代管理と変更不能保管を必要に応じて適用

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.



1．2026年12月期 第3四半期 業績概要

2．2026年12月期 業績予想

3. 成長戦略

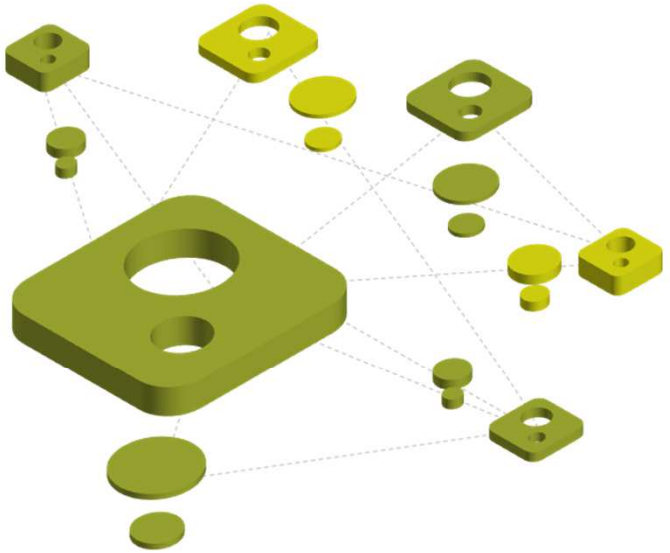
Appendix

・会社概要

・カンパニーハイライト

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

1.　2026年12月期 第3四半期 業績概要



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

2026年12月期 第3四半期 業績概要

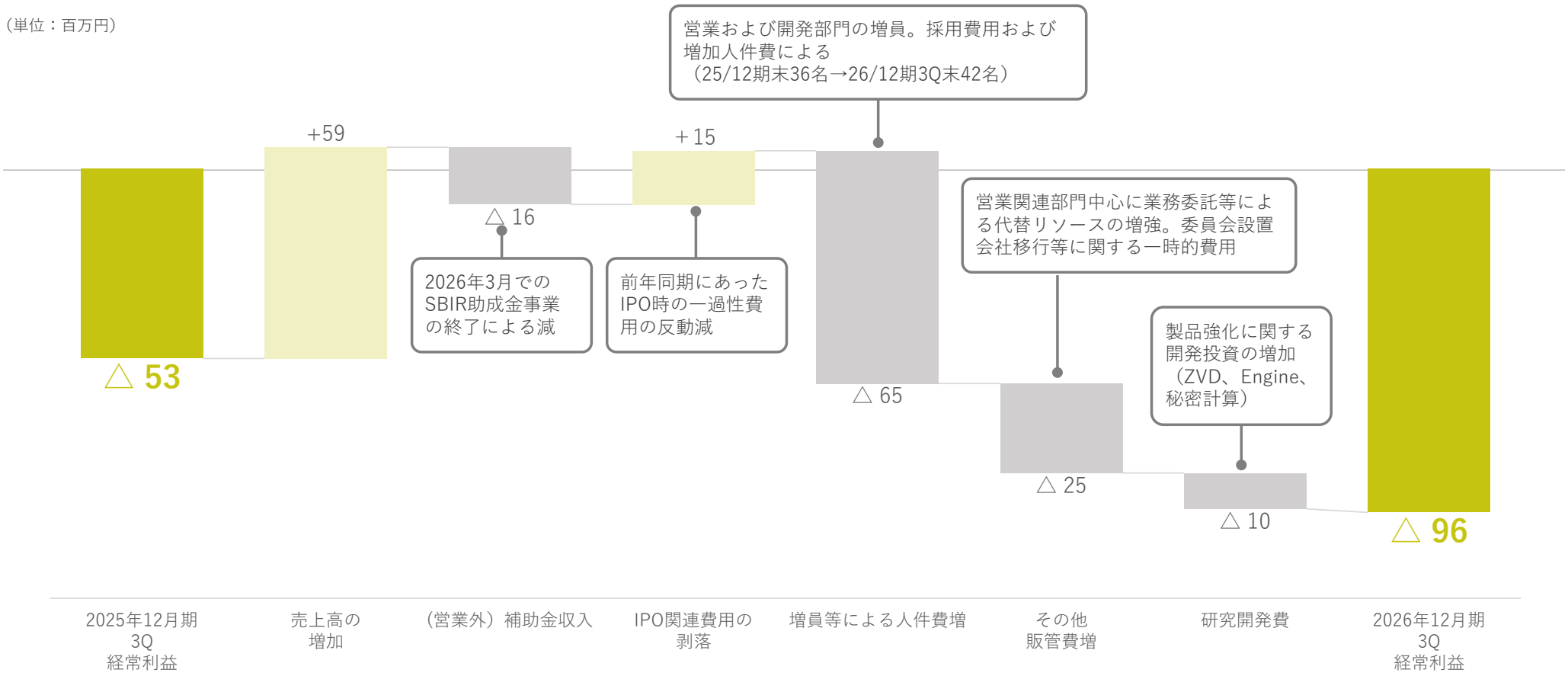
前年同期比増収減益。売上高は、案件が第4Qにずれ込んだ以外は想定通りに進捗。
営業利益は、将来の成長に向けた人材投資等が増加するも計画範囲内で推移。

（単位：百万円）	2025年12月期 3Q	2026年12月期 3Q	前年同期比		通期 業績予想	進捗率
			増減額	増減率		
売上高	430	490	59	13.9%	1,080	45.4%
売上原価	53	53	-	-	-	-
売上総利益	377	436	59	15.9%	-	-
販管費	446	553	107	24.1%	-	-
営業損益	△69	△116	△47	-	161	-
経常損益	△53	△96	△42	-	180	-
当期純損益	△42	△73	△31	-	302	-

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

経常利益 増減分析

営業部門を中心とする人員・外部リソースの拡充に加え、製品強化に向けた外注開発が先行。

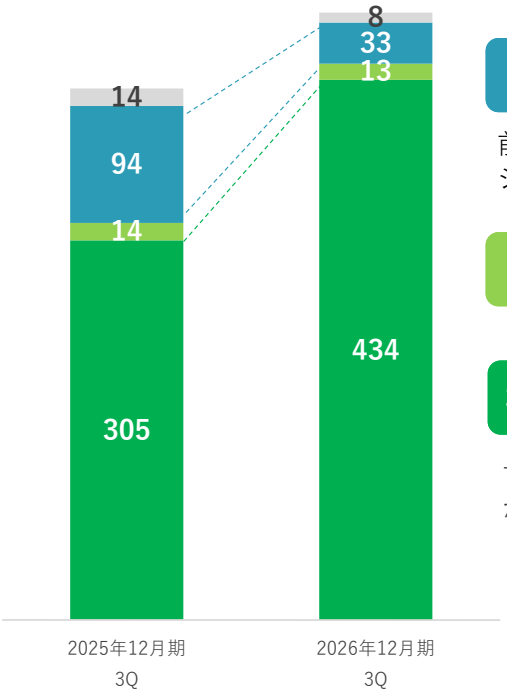


Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ソリューション別 売上高・構成比

売上高の8割以上を占める主力のZENMU Virtual Drive は、サブスク受注の伸長により、42.0%の大幅増収。
Query Ahead®は前年の単発受託案件の反動で減収。

ソリューション別 売上高（単位：百万円）



QueryAhead® 前年同期比 △64.2%

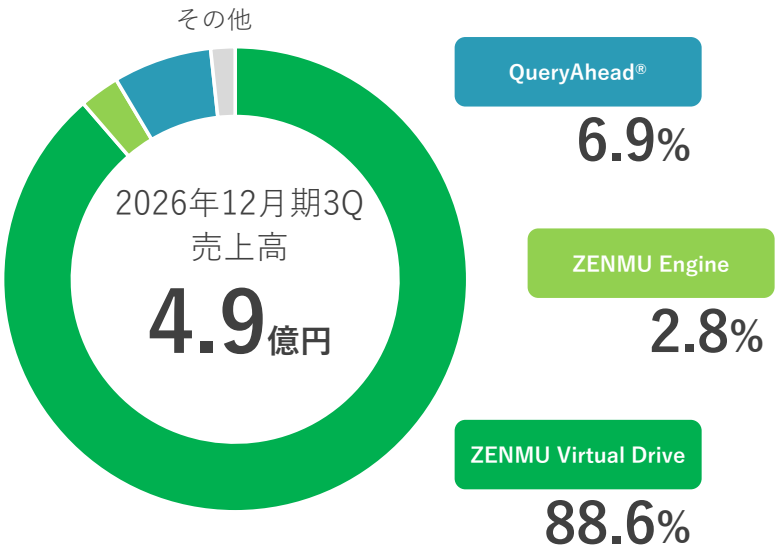
前1Qに発生した国が主導する研究開発プロジェクト等の単発受託案件の反動減。

ZENMU Engine 前年同期比 △5.9%

ZENMU Virtual Drive 前年同期比 +42.0%

サブスクリプション型のライセンスの受注が順調に増加。

ソリューション別 構成比（単位：百万円）

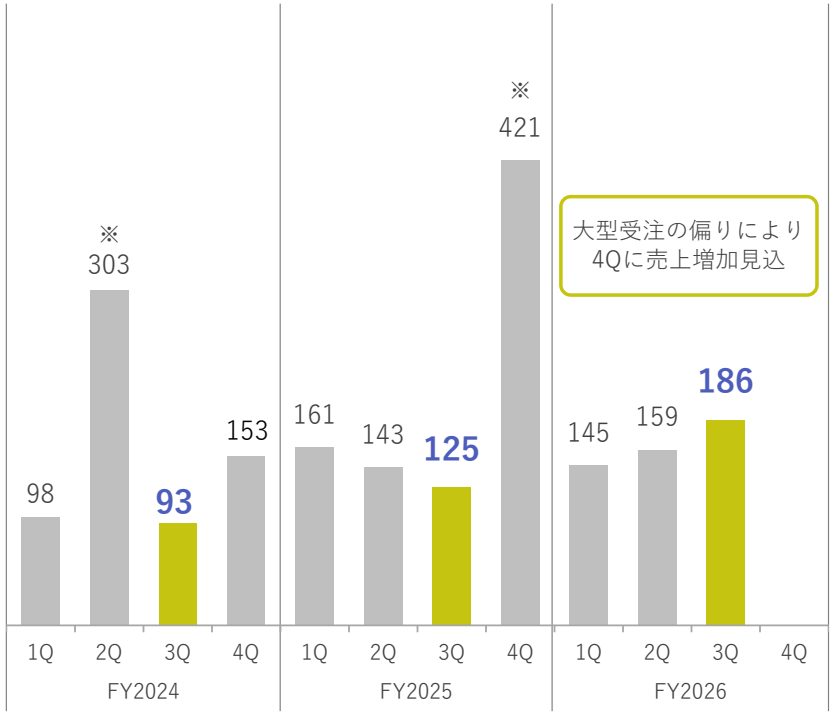


Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

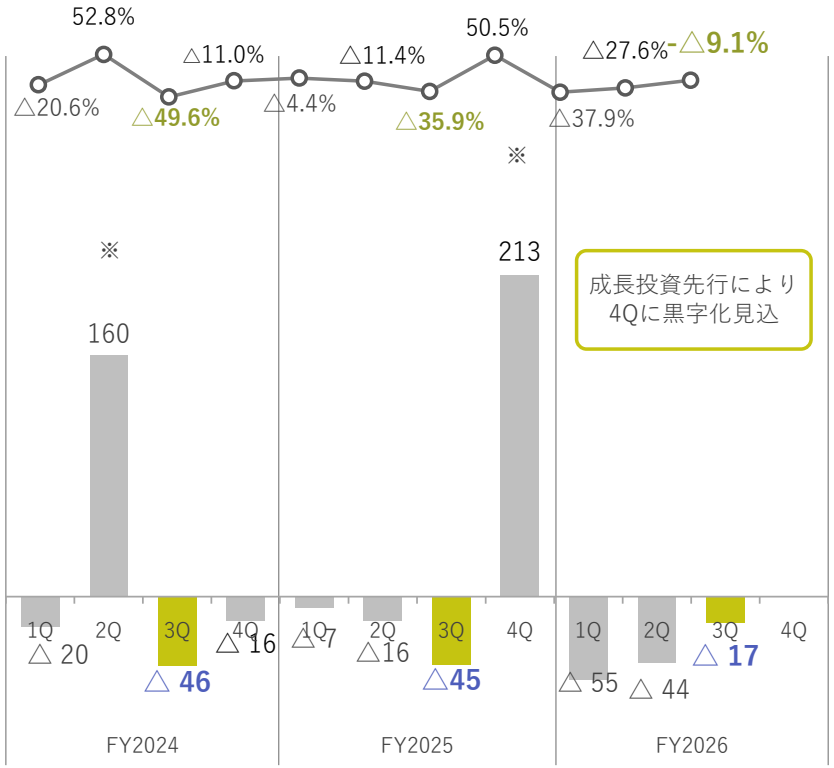
売上高・営業利益 四半期推移

大型商談の予定時期の偏りにより、売上・利益ともに第4Qに増加する見込み。
採用・マーケティングなどの成長投資により、第3Qまでは営業損失が継続する計画。

売上高（単位：百万円）



営業利益・営業利益率（単位：百万円）



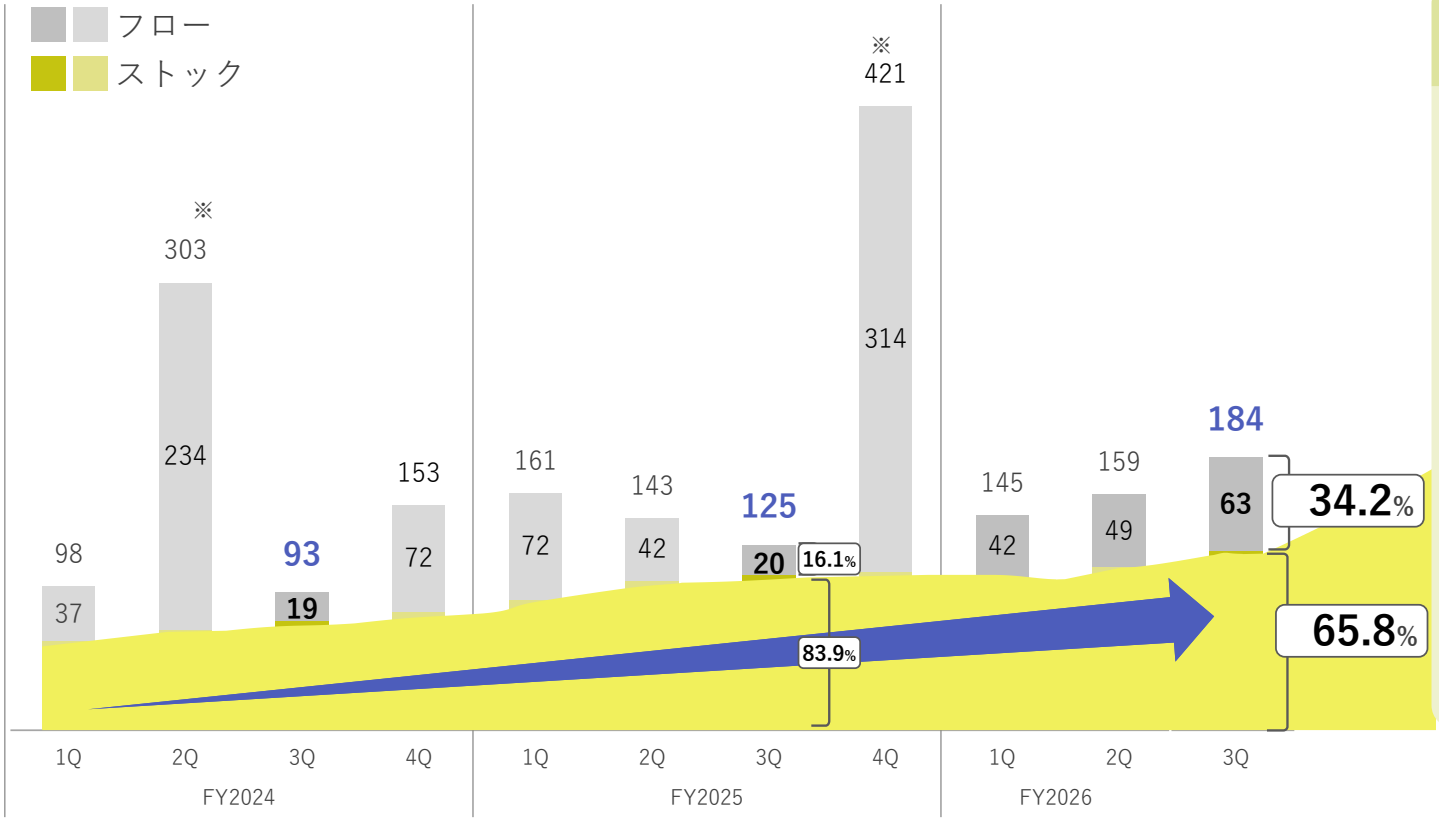
※：ZENMU Virtual Drive の買い切りライセンスによるフロー売上の一時的な増加により、増収増益

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ストック・フロー 売上高 推移

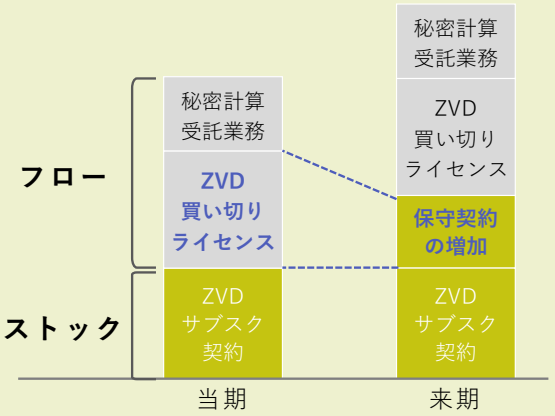
ストック売上比率が約7割を占め、安定的な収益を確保。

（単位：百万円）



収益構造イメージ

当期のフロー収入のうち、
ZENMU Virtual Drive買い切りライセンス
の収益・売上が
来期のストック収入につながる構造

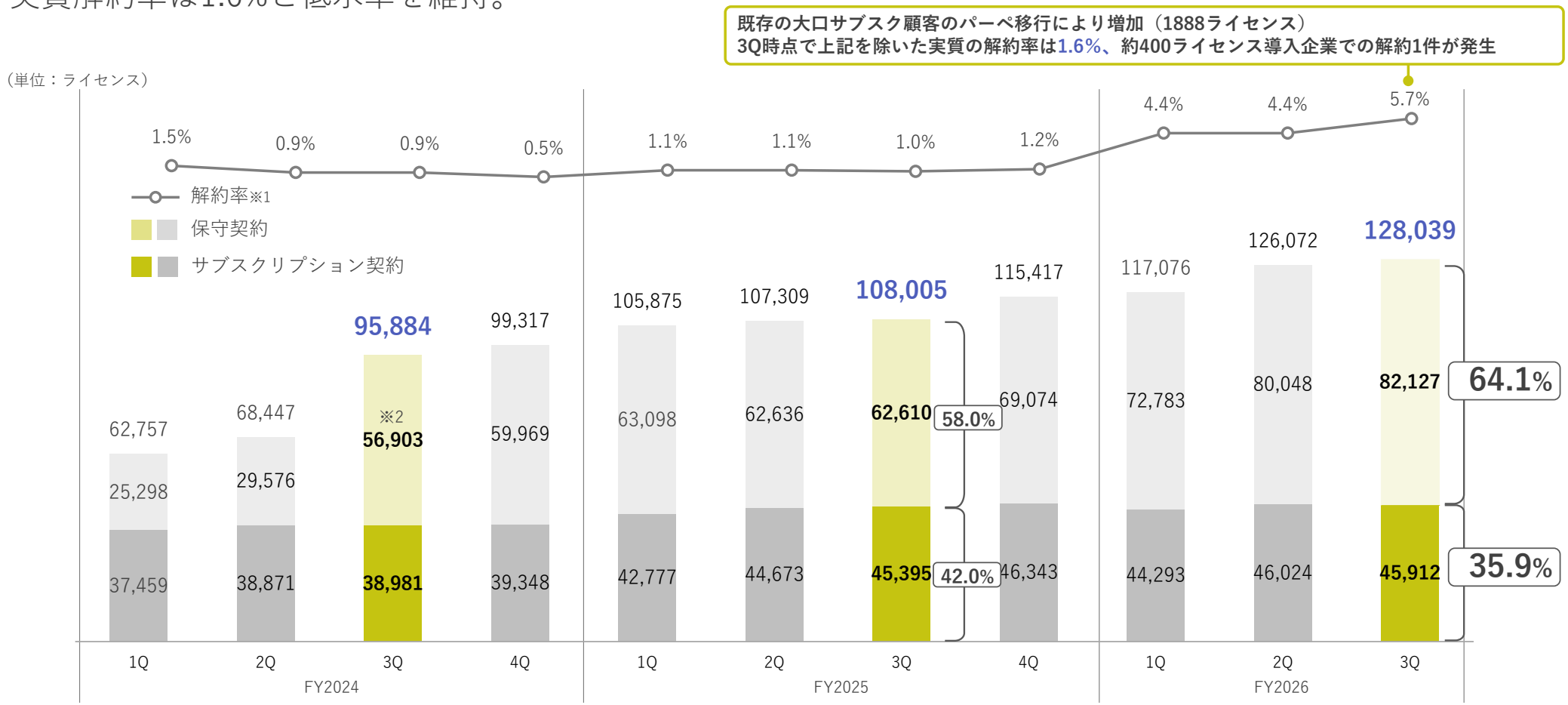


※：ZENMU Virtual Drive の買い切りライセンスによるフロー売上の一時的な増加

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ZENMU Virtual Drive ライセンス数・解約率 推移

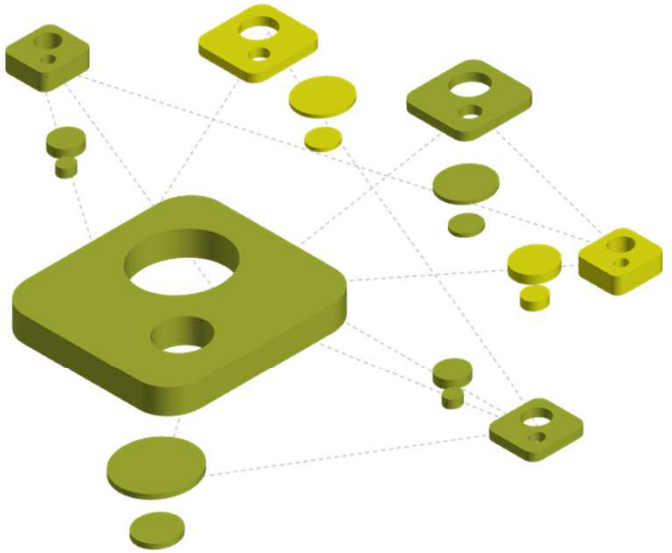
ライセンス数は前年同期比で順調に増加。解約率は、大口顧客の契約形態変更により一時的に変動するも、実質解約率は1.6%と低水準を維持。



※1：前年同期末からの1年間におけるZVDサブスク契約の解約ライセンス数　÷　前年同期末時点でのZVDサブスク契約のライセンス数
※2：大手損害保険会社への追加導入のため、2024年12月期第3四半期以降に保守契約が増加

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

2.　2026年12月期 業績予想



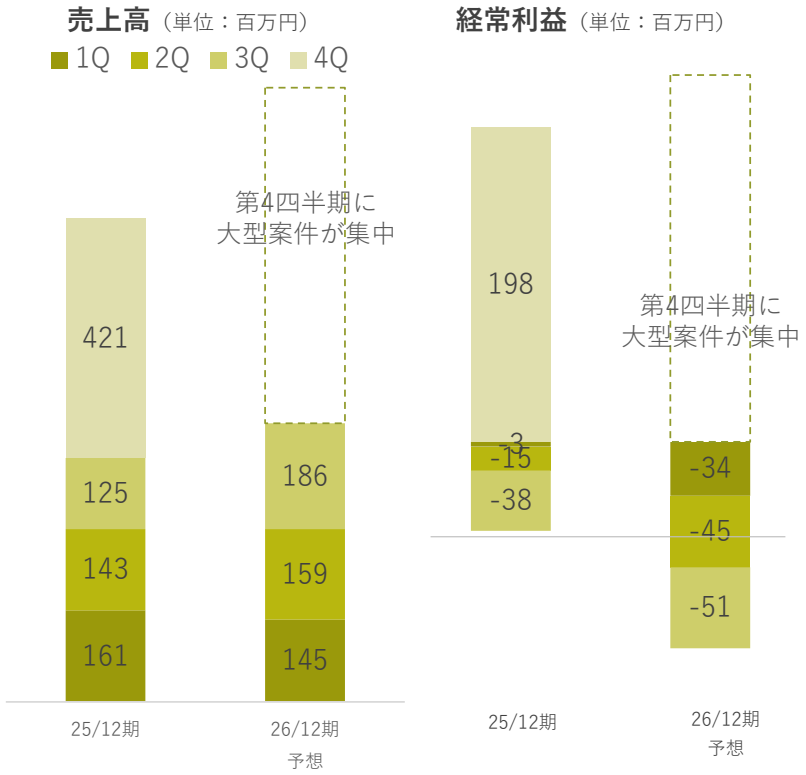
Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

2026年12月期 業績予想

第４四半期に大型案件の受注に注力　通期計画達成を目指す

計画の前提として売上・利益ともに計画は下期偏重。ZENMU Virtual Driveの安定的な成長に加え、秘密分散・秘密計算ソリューションの認知拡大およびパートナーシップの拡大を目論み、売上・利益ともに成長を見込む。第３四半期末現在、通期目標への売上進捗率は45%であるものの、第4四半期での大型案件の進捗や受注時期による業績への影響を見極めながら、通期計画の達成に向けて取り組む。

（単位：百万円）	2025年12月期実績	2026年12月期 通期予想	前期比増減率
売上高	851	**1,080**	+26.8%
営業利益	143	**161**	+12.1%
営業利益率	16.9%	**14.9%**	-
経常利益	160	**180**	+12.1%
経常利益率	18.9%	**16.7%**	-
当期純利益	155	**302**	+93.7%
当期純利益率	18.3%	**28.0%**	-

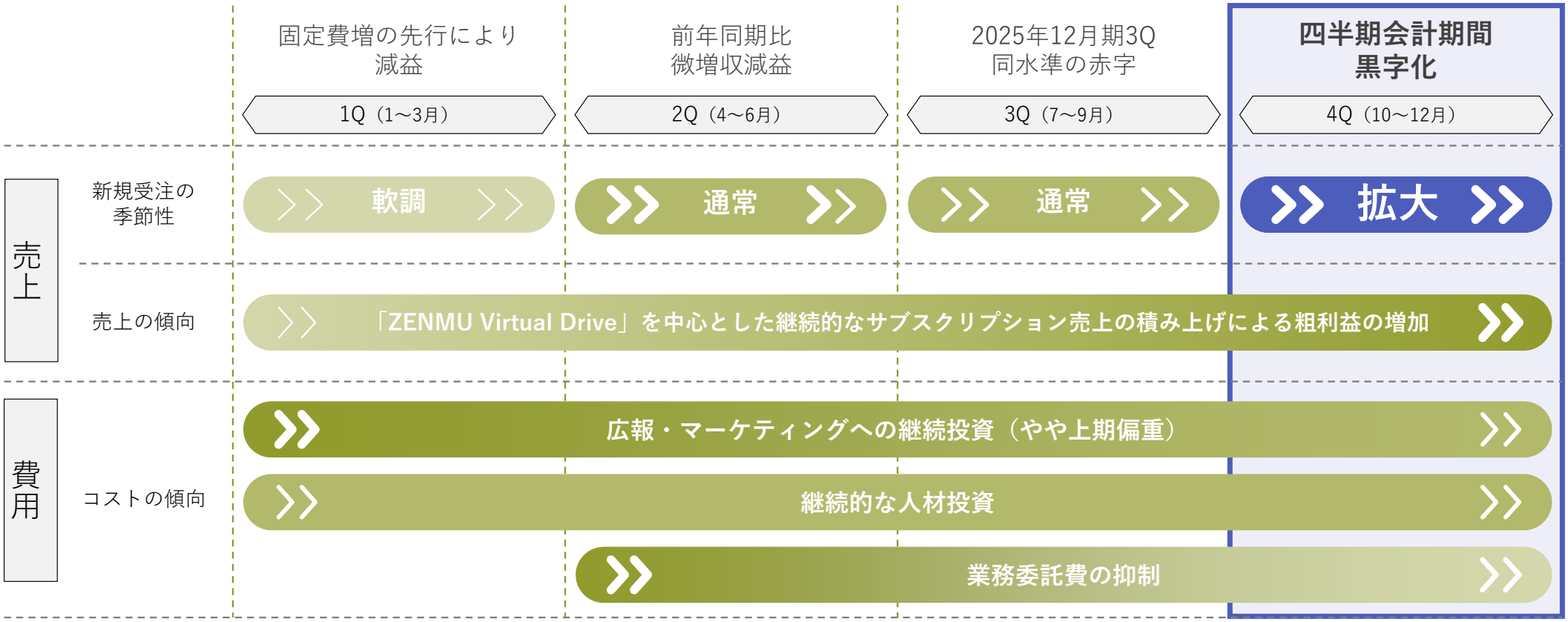


Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

2026年12月期 業績予想

2026年12月期の四半期業績計画は大型商談の予定時期の偏りにより3Q会計期間まで赤字見込み

・採用、マーケティングなど成長投資による費用先行から、3Q会計期間までは赤字が継続
・4Q会計期間は費用負担を上回る売上増加により、通期で黒字化の見込み

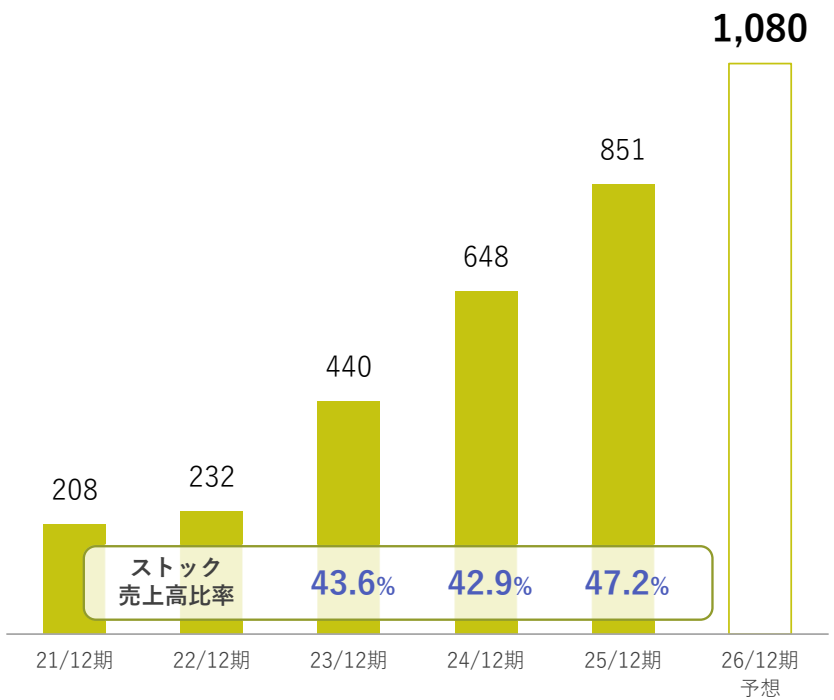


Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

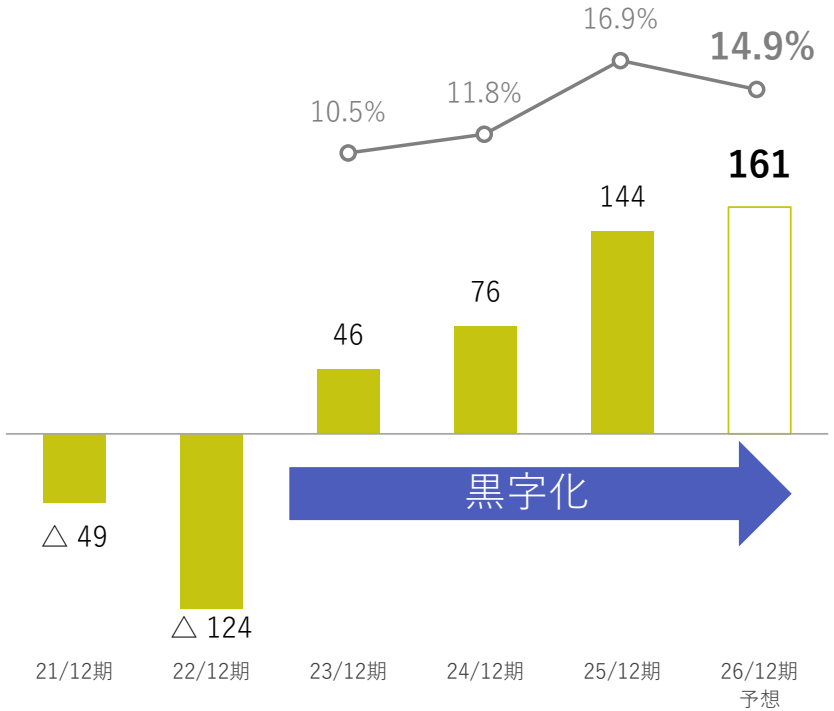
業績推移

売上高、営業利益ともに順調に進捗、売上高のストック型収益は５割に近づく

売上高（単位：百万円）

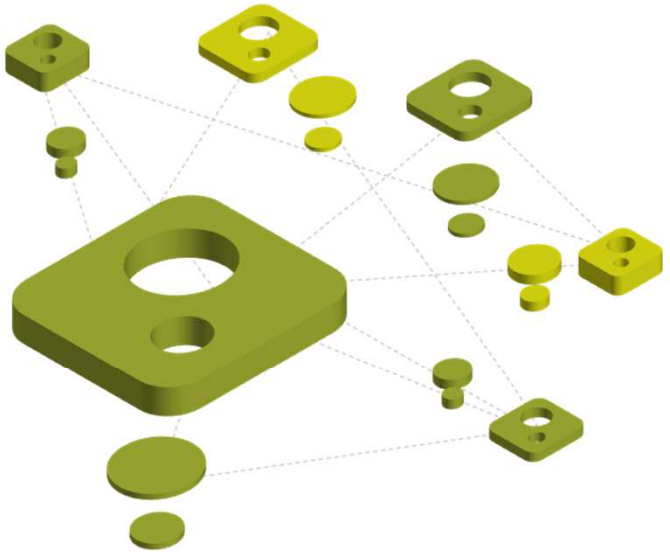


営業利益（単位：百万円）



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

3. 成長戦略



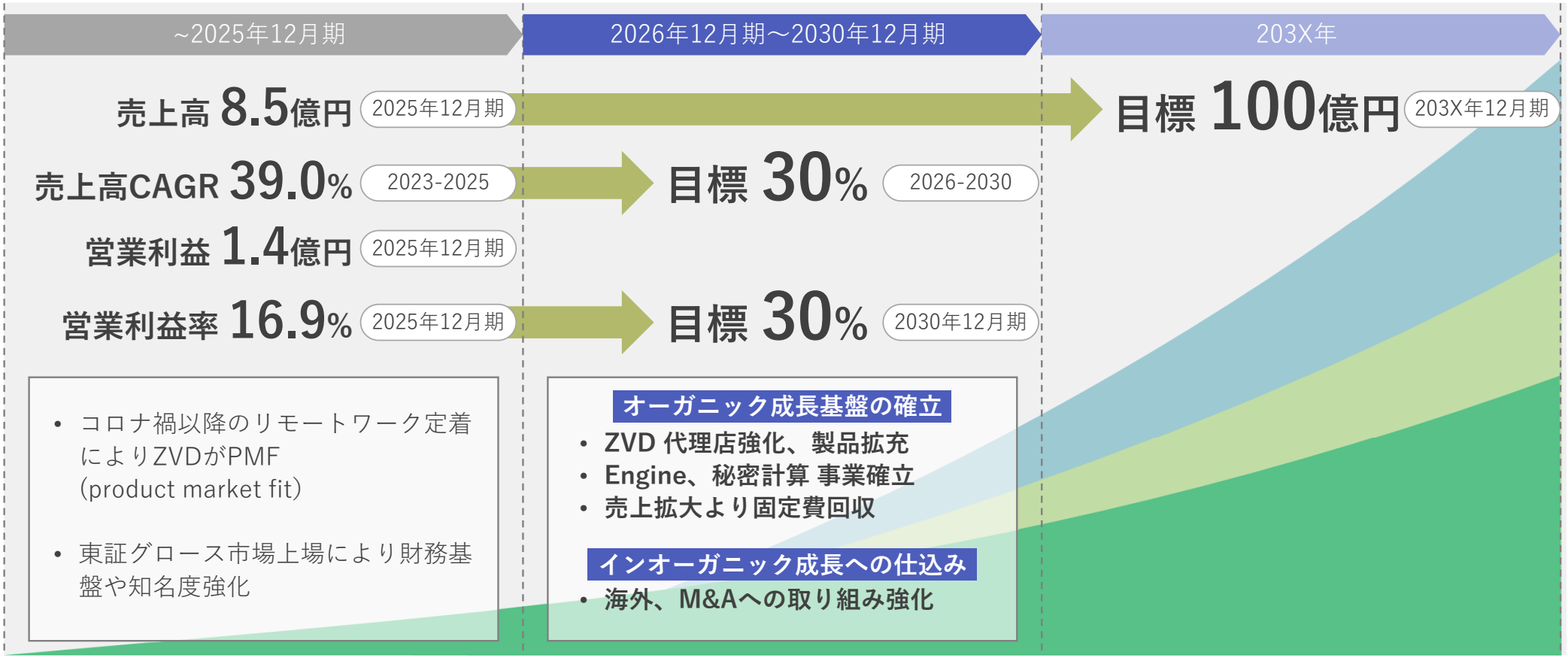
Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

成長戦略

中期成長目標 “triple 30 Plan”　2030年12月期　売上年平均成長率30%×営業利益率30%

2030年12月期までの中期目標　**売上高CAGR（年平均成長率）30% × 営業利益率　30%**

オーガニック成長を加速させるとともに、インオーガニック成長への施策に取り組み、
長期目標では売上高100億円企業を目指す。



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

成長戦略

3軸の成長戦略

短期的にはZENMU Virtual Driveによる収益基盤を形成、中長期的には、ZENMU Engine、
秘密計算によるサービス充実化を図り、事業領域の拡大と持続的成長を目指す

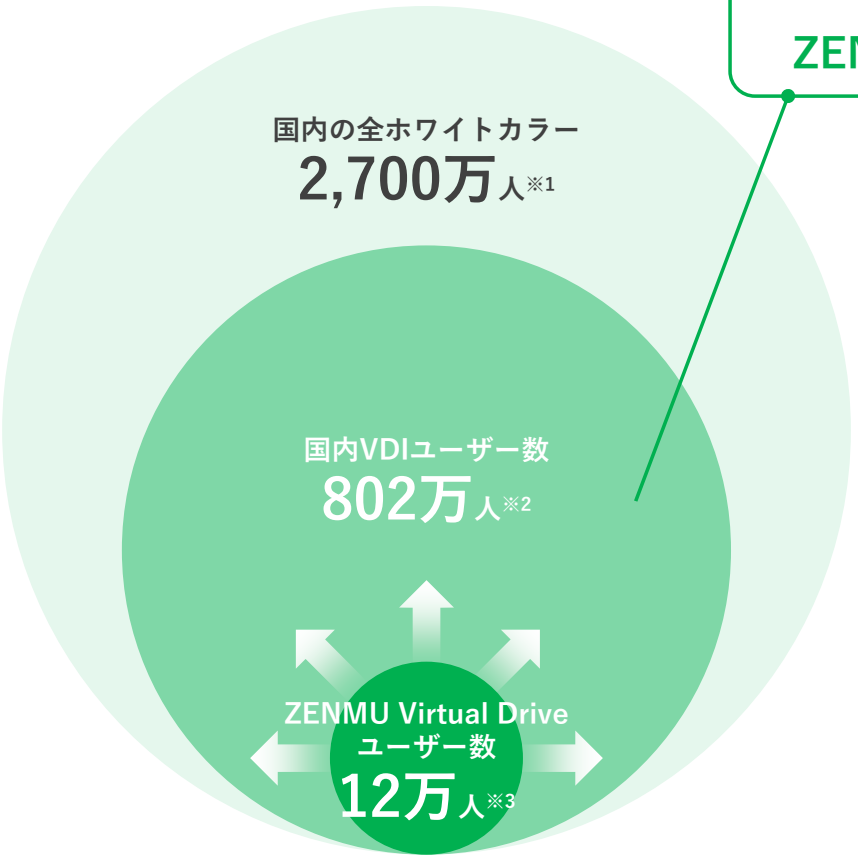
		戦略	主な施策
短期	情報漏洩対策ソリューション ZENMU Virtual Drive	VDI共存戦略により商談機会創出 大企業のPC買替、システム見直しによりZVDシェア拡大	✓大企業中心にアプローチ ✓自社直販とSIerなど販売代理店網を拡大し販売力を強化 ✓カスタマーサクセス活動によるリテンションとアップセル
中長期	秘密分散ソリューション ZENMU Engine	アライアンス戦略強化により事業を拡大 OEMプロダクト群の形成	✓既存アライアンスにおいて、ドローンや車載データ、監視カメラ、AIなどの成長分野においてZENMU Engineの活用を進める ✓アライアンスパートナー数の拡大 ✓秘密分散技術の特性を活用したOEMプロダクト群の形成
	秘密計算ソリューション QueryAhead®	AI、機械学習の加速とともに事業を拡大 海外事業展開	✓産総研との共同研究による認知度向上への取り組み ✓第三者によるQueryAheadの安全性証明を検討 ✓QueryAhead® のPaaSソリューション転換によるPLG ✓秘密計算適用領域へのアプローチ

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ZENMU Virtual Drive　成長戦略

販売代理店の拡充：代理店のポジショニングにあわせた販売シナリオ

800万人以上の国内VDIユーザーに対し現時点での
ZENMU Virtual Driveのユーザー数は約１％と獲得余地は大きい



対 VDI市場戦略（置き換え、共存戦略）

置き換え

引き続きPCライフサイクル管理を強みとするSierとの連携を強化。
コスト、利便性などVDIとの比較優位性を訴求

共存

新たにVDI、DaaSの販売実績の大きいSierとの連携を開拓。
VDIのメリットはそのままに併用による付加価値を提案

対 非VDI市場戦略

中小向け、士業事務所向け提案

中小企業向け、会計事務所特化など、特色をもった中堅Sier、
販売会社を軸にコストや導入のしやすさを訴求

※1：労働力調査（令和5年総務省）の基づく全就労者数と国勢調査（令和2年）に基づくホワイトカラー比率から推計。
※2：VDIユーザー数:2024年実績値 2025年6月IDC市場予測資料
※3：2026年9月現在、買い切りライセンスによる保守契約を含む

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

成長戦略

ZENMU Virtual Drive　VDI共存戦略とアップセル施策の進捗

ZENMU Virtual Drive

VDIおよびDaaSとの併用を前提とした廉価版「ZLE」と大企業のBCP需要に応える「ディザスタリカバリオプション」を新たにリリース

課題

VDIの利用方式として従来の主流であるハードディスク(HDD)を内蔵しないシンクライアント端末での利用から、通常のPCで利用するケースが増加傾向。ユーザーがローカルにデータを保存できるため利便性は高い一方で、PCの紛失・盗難時の情報漏洩リスクが懸念。

2025年2月から新製品「ZENMU Virtual Drive Limited Edition」を月額500円で提供開始

VDI及びDaaS利用中のユーザー向けVDI利用と併用を前提とした新たな提案

ZENMU Virtual Drive Limited Edition（ZLE）

- ✓ VDI・DaaSの利用環境で、Windows PCのローカルに保管したデータを保護
- ✓ VDI・DaaSとの併用に必要な機能に絞り込み、安価で提供

PCの更新タイミングに限られない導入機会を創出

課題

自然災害の発生やAWS東京リージョンへの依存によるシステム停止リスクの高まり、企業の事業継続計画への対応強化の要求を背景に、高可用性と冗長性を備えたIT環境の重要性が高まっている。

「ZENMU Virtual Drive ディザスタリカバリ オプション」は、大規模災害時にお客様の接続先を大阪リージョンに振り向け、継続的な利用を可能に



マルチリージョン

金融系など大企業からの需要に対応、有償OPとしてアップセル

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

成長戦略

ZENMU Virtual Driveの製品拡張ロードマップ

ZENMU Virtual Drive

協業・提携によるPC向けトータルソリューション化

他社のセキュリティ製品との同時利用や共同販売によるタッチポイント創出、総合的なセキュリティ実現を図る

マルチOS、マルチデバイス/クラウド対応

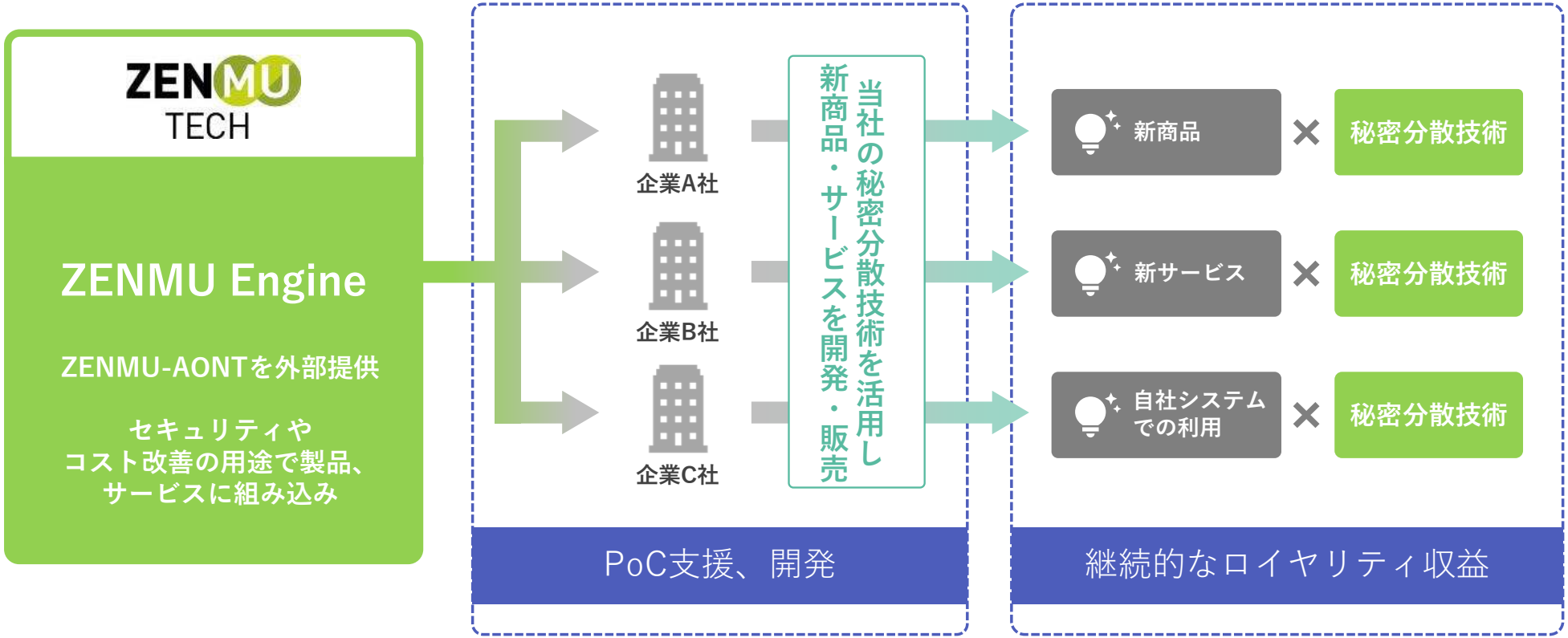
現行のWindowPC向けだけでなくmacOSやPC以外のスマートフォン・タブレットなどデバイスの種類を選ばず利用可能なサービスの開発を推進中

	PC領域	非PC領域（スマートフォン、タブレット等）
Windows OS	**メイン市場として引き続き製品強化に注力** 1 **連携製品の拡大によるトータルソリューション化** デバイス管理、バックアップ、認証など他社のセキュリティ製品との同時利用により総合的なセキュリティを実現を図る	3 **クラウドデータ保護製品 開発** **（2027年春リリース予定）** PC内ではなくクラウド側のデータを秘密分散で保護する製品の開発に着手。 ブラウザベースで秘密分散、復元に対応させることでプラットフォームを選ばず**PCだけでなくスマートフォンやタブレットでも同じデータに接続可能なマルチデバイス対応を実現**
Mac OS	2 **ZVD Mac版 開発** **（2027年春リリース予定）** 広告、ITなどの需要に対応	
その他（Linux、Chrome OS等）		

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

アライアンス戦略強化により事業を拡大

企画/提案→検証→開発→販売というパイプラインの拡大、スピードアップのため採用や専任化により体制を強化

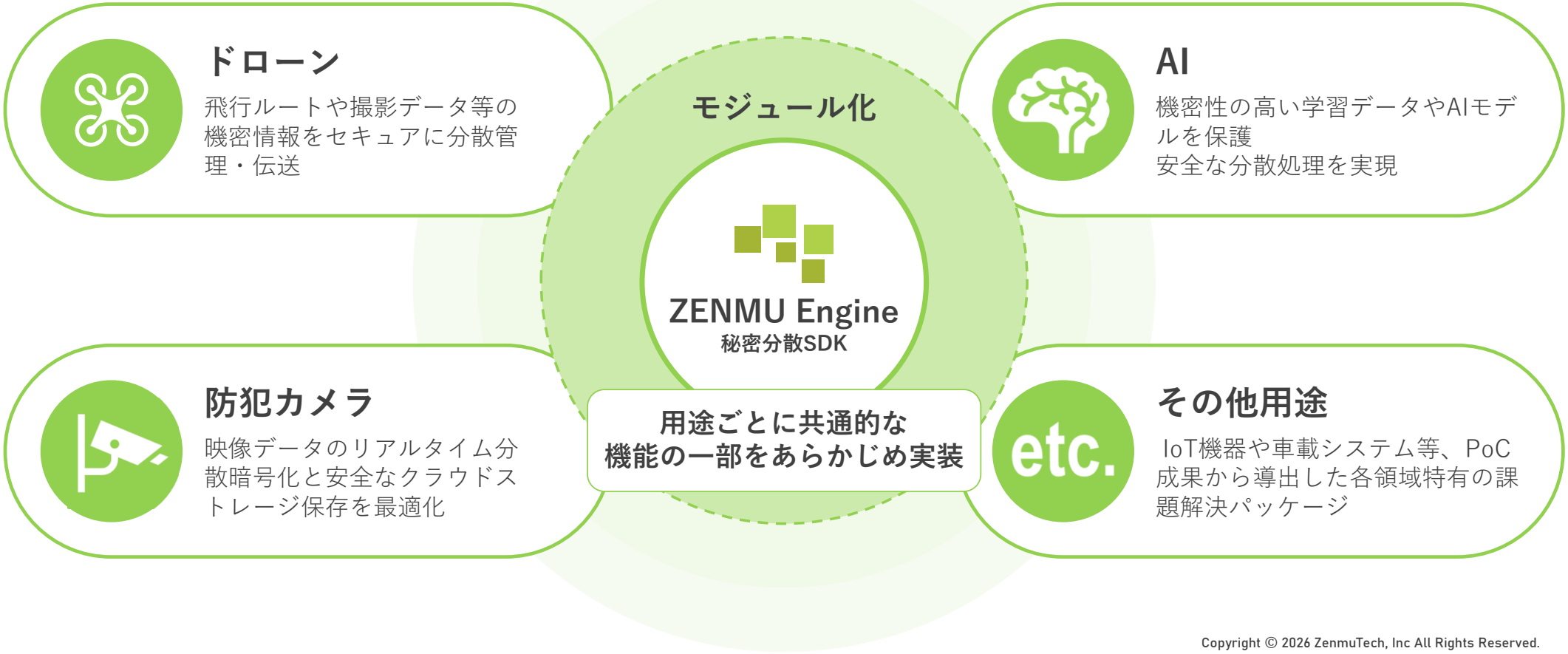


Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

モジュール化による事業化を加速

ZENMU Engine

Engineの単体提供に加えて、これまでのPoCから抽出した各領域の課題、用途に応じた共通的な機能の一部を加えたモジュール化を行うことでお客様側での製品開発期間の短縮、コストの大幅削減を実現



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密分散Engineにおける主なプロジェクト

ZENMU Engine

パートナー企業との共創を通じ、文教・自治体、AI、ドローン、医療など多様な分野への展開を推進。
製品リリースに伴うロイヤリティ収益の創出を目指す

プロジェクト	概　要	企画/準備	実証	契約	プリサービス	リリース予定
セキュリティ ソリューション開発	文教、自治体向けソリューションのセキュリティ強化					2026 RevoWorks ZENMU-Storage
ファイル転送 ソリューション開発	複数のパートナーとデータ転送や共有サービスのセキュリティ強化					2027～2028
ドローンプロジェクト	データ転送、保管に関するセキュリティ強化					2027～2028
AIプロジェクト	AIで利用するデータについてセキュリティと利便性を両立					2026～2027
医療系プロジェクト	医療分野のDXに対して安価なセキュリティ基盤の提供					2026 HAIP

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

成長戦略

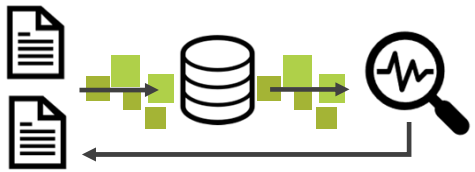
秘密計算ビジネスのプライバシー保護技術領域に関する取り組み

秘密計算　QueryAhead®

プライバシー保護技術領域※における研究開発体制の強化を目的として
統計数理研究所 村上隆夫准教授を当初顧問に招聘。

データを秘匿したまま分析を可能とする秘密計算技術への期待が高まる一方、**分析結果そのものから元データに関する情報が推測されるリスクへの対応、いわゆる「アウトプットプライバシー」が一つの重要な論点**となっており、秘密分散技術、秘密計算技術をベースとしたPETs領域における競争優位性のさらなる向上を図るため、村上氏を顧問として招聘

データを秘匿化して分析

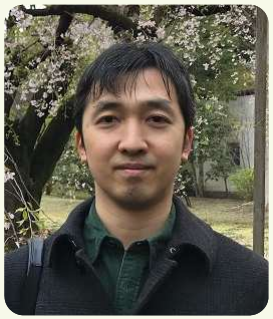


分析結果から元データに関する
情報が推測されるリスク

**プライバシー保護技術を
強化することで、
競争優位性を向上**

村上 隆夫 准教授

（統計数理研究所 学際統計数理研究系）



差分プライバシー、データ匿名化、プライバシー保護データ分析などの研究分野における国内有数の研究者であり、理論研究から社会実装まで幅広い実績を保有

村上 顧問からのコメント

差分プライバシーを中心とした出力プライバシーの研究をしており、データ解析結果から元データが漏えいするリスクの解析や、データ解析精度とプライバシーを両立する技術開発などに取り組んでおります。PETs の社会実装にも興味を持っており、私の専門知識がZenmuTechのPETs領域の競争力強化に繋がると考え、この度、顧問をお引き受けいたしました。
私の専門知識と研究経験を活かして、出力プライバシーに関する学術的・技術的支援を幅広く行っていきたいと考えております。特に、秘密計算と出力プライバシーは補完的な関係にあり、両者を合わせることで安心・安全なデータ利活用が推進できるものと考えております。

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密計算ビジネスのミッションと技術スコープ

秘密計算　QueryAhead®

ZENMU TECH

秘匿性を担保したデータ連携・分析により、組織を超えたデータ活用を実現し、新しい価値を共創する。

ミッション

秘匿性を担保したデータ連携・分析



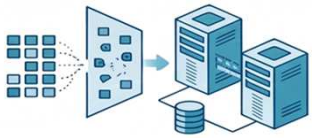
組織を超えたデータ活用



新しい価値を共創

スコープ

秘密分散技術を用いたデータの保持・伝送



データを秘密分散（無意味化）して安全な保持ならびに伝送を実現

秘密計算技術を用いたデータの分析・活用



データを暗号化したまま分析し、データの機密性と流動性の両立を実現

データの保護・出力



高機能暗号と組み合わせることで入力から出力まで一貫した保護を実現し、情報漏洩リスクを低減

MPCによる秘密計算技術を基軸としつつ、ミッションを実現するために必要な

- 高機能暗号の採用
- 関連技術の採用・連携

にも、積極的に取り組んでいく

取り組み

アクセスコントロール強化によるさらなる安全性向上	BigObject社との協業、他の高機能暗号（準同型暗号）や連合学習等の検討	当該研究における第一人者である統数研村上隆夫氏の顧問招聘

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

QueryAhead®開発ロードマップ

秘密計算データベースからスタートしたQueryAhead®、今期はクラウドベースのプラットフォーム化を実現し、より多くのお客様に「データはもっと自由になれる」世界を体験していただく。

専門知識不要で
秘密計算技術を利用できる
秘密計算データベースのローンチ

QueryAhead®

～2026年12月期1Q

ネイティブコード化
により秘密計算の基本処理を
従来比**100倍以上に高速化**

2026年12月期 2Q

クラウドベースのプラットフォーム化

PaaS（QueryAhead Hub）
を通じて受託・フロー型から
クラウドの継続課金モデルへ転換

ARR積み上げ型の成長基盤を確立

2026年12月期 4Q

機密データを秘匿したまま
AI学習・推論・分析を加速
AI/ML x PETsの実現へ

AI-Ready

2027年12月期

データがもっと自由になれる世界へ

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

QueryAhead® のPaaSソリューション転換

Gov（国）プロジェクト関連の受託案件（フロー収益）中心の売上からPaaS化。
「収益・市場・導入」のボトルネックを解消し、継続的な成長基盤を構築する。

PaaS化

	現状の課題	期待される効果
収益構造	売上の8割強がGov(国)プロジェクト等の労働集約型ビジネス。エンジニアリソースが開発に拘束される「売り切り型（フロー)」であり、収益の予測と積み上げが困難。	汎用ソリューションとしてのサブスクリプション（継続課金）モデルへ移行し、安定的かつ連続的な成長基盤を構築(ARR積み上げ）。
市場の拡大余地	オンプレミス志向のままでは導入先が金融・医療などの 「超規制業界」に限定されやすい。クラウドが主流（71%）である世界の秘密計算市場の成長セグメントを取り込めていない。	データウェアハウスとの連携を容易にし可用性を向上させることで、世界市場のボリュームゾーンへ適合。
導入のハードル	専用環境構築やデータ移動が必要であり、リードタイムが長期化。顧客が手軽に試せない。	無料トライアル→ 小規模PoC→ 本番採用のPLG（Product-Led Growth）ファネルを確立し、顧客獲得効率を向上。

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密計算　海外事業展開に向けた取り組み

情報セキュリティ市場は海外のシェアが大きいため、今後は米国等への海外展開も見据え、事業化へ向けて積極的な投資を行う予定。各地域において市場調査段階、展示会の出展やパートナー開拓を実行中。

欧州(EU)

- ✓GDPRによる個人情報に関する厳しい保護規制
  → 制約下での利用について秘密計算に商機
- ✓今後の市場調査を検討

北米(USA)

- ✓2022年から展示会出展など
  市場調査、パートナー開拓を推進

APAC

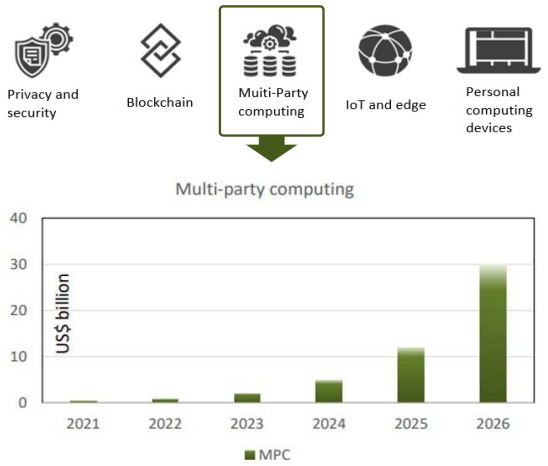
- ✓DXが進みAPACのHQが集中する
  シンガポールへの進出を検討
- ✓台湾では電子企業等向けに
  Engine紹介のため展示会出展も検討

※ CONFIDENTIAL COMPUTING CONSORTIUM「Common Terminology for Confidential Computing」

世界市場規模

2024年	2026年(推定)
160-180億ドル	520-540億ドル

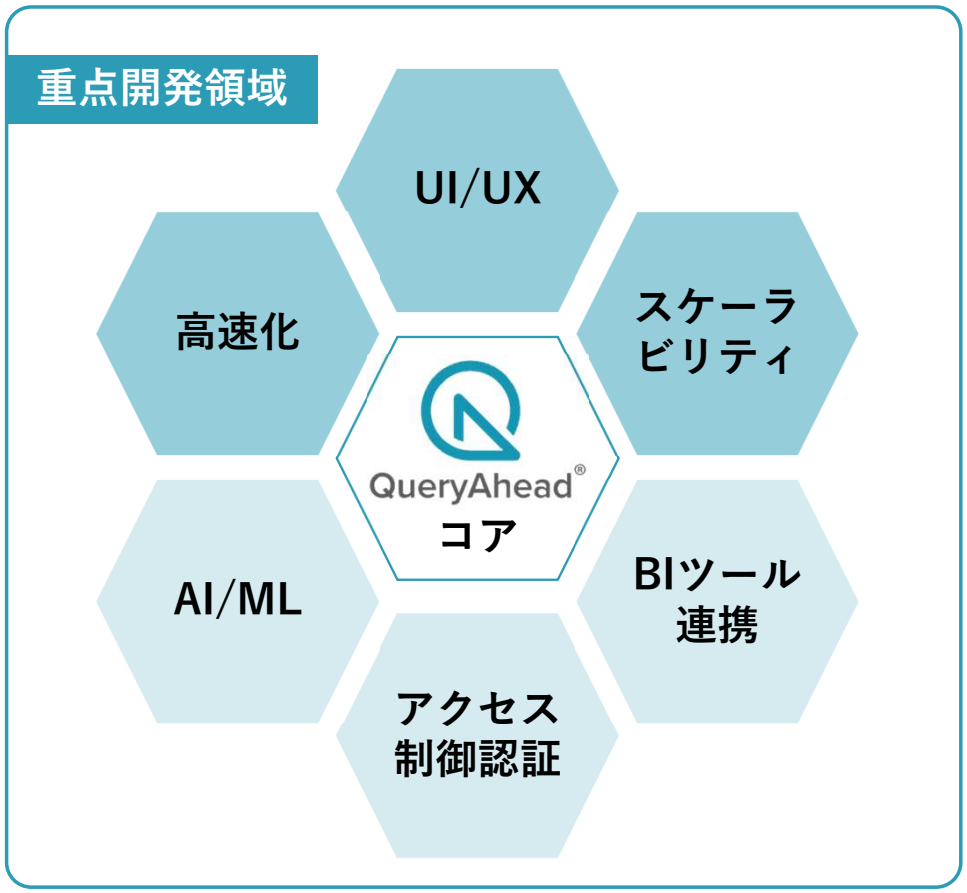
当社が採用する
「Multi-party computing」領域の市場規模



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

QueryAhead®の開発・事業方針

機能強化とビジネス開拓に並行で取り組む。リピート案件を中心とした受託収益を確保しながら
商用サービス化に向けてアライアンスを開拓



Development

回帰や次元圧縮といった人工知能や機械学習を用いたプライバシーデータの活用需要が高いため、これらに対応するモジュール開発をさらに充実させるとともに、ビッグデータの高速な秘密計算処理を実現するシステムリファインメントをプライオリティとする

Collaboration

安全性の担保、最先端技術の導入と普及、世界トップレベルの学会への発信といったあらゆるフェーズにおいて産総研との協業をさらに深化させ、グローバルで価値創出が可能なソリューションを開発していく

Business

豊富な国プロ参画の経験・知見をベースに国家安全保障におけるデータセキュリティ戦略に貢献していくとともに、市場における着実な社会実装、価値創出をさらに具現化し、官民共創のロールモデル確立を追求していく

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密計算　海外事業展開に向けた取り組み

秘密計算　QueryAhead®

本年3月に戦略的協業に関するMOUを締結した台湾のBigObjectと高機能データ活用基盤の確立に向け協働中
日台ターゲット顧客へのアプローチも開始

BigObject Inc.

独自のインメモリ技術を活用した超高速なビッグデータ分析や
エッジコンピューティング領域に強みを持つテクノロジー企業。
スマートマニュファクチャリングや金融分野で豊富な実績を持ち、
本提携を通じて高度なセキュリティ領域へ事業を拡大。

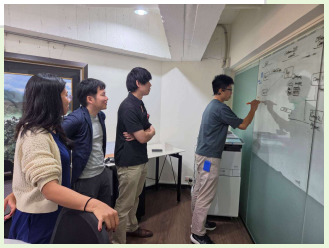
本協業の背景

台湾のデータ活用政策におけるデータ駆動型社会とAI推進の加速

デジタル発展部（moda）の主導によるオープンデータ政策や「台湾AI行動計画」のもと、医療やスマートシティ分野でのデータ利活用が強力に推進中。**データの積極活用と強力なプライバシー保護の両立が国家的な急務**となっており、本協業の技術が強く求められてる。

BigObject × ZENMU TECH





プライバシーを保護した形で機密データを活用できる新しいデータ活用基盤の確立を目指す

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密計算QueryAhead®における主なプロジェクト

秘密計算　QueryAhead®

レゾナックとの共創により、企業間の機密データを活用するMI基盤を構築。
実ビジネスにおける成果を踏まえ、製造・金融・ヘルスケアなどへの展開を推進

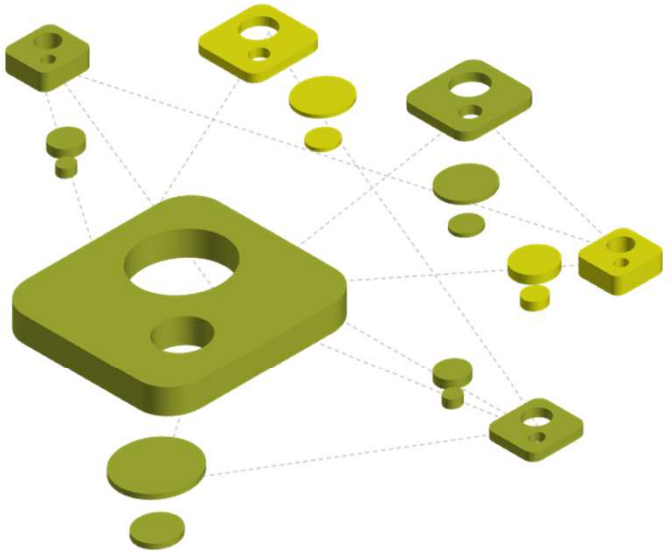
プロジェクト	概　要	企画/準備	実証	契約	プリサービス	リリース予定
民間プロジェクト(MI) ①	マテリアルズ・インフォマティクス分野における先進的なデータ利活用					2026 レゾナック材料開発基盤で活用開始
民間プロジェクト(MI) ②	マテリアルズ・インフォマティクス分野における先進的なデータ利活用					2027以降
民間プロジェクト(金融)	金融機関向けのプライバシーデータ利活用					2028
台湾BigObject	BigObjectの知見、ネットワークをもとに製造、金融、ヘルスケア領域でのデータ基盤構築をはかる					2026～2027
Gov（国）プロジェクト	量子コンピュータ、インフラ領域におけるプライバシーデータ利活用	内閣府が主導する戦略的イノベーション創造プログラムの他、複数のプロジェクトに参画しており、プロジェクトにおける成果や提言を通じて、我が国のデータセキュリティ戦略の推進と、信頼性のある自由なデータ流通に貢献してまいります。				

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

Appendix

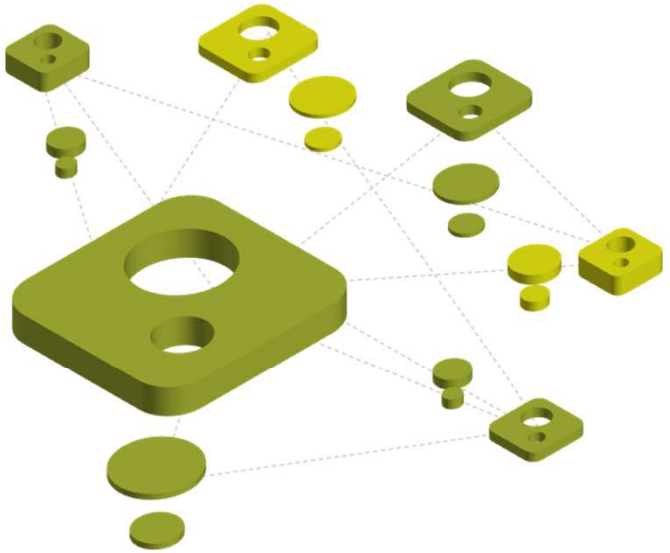
・会社概要

・カンパニーハイライト



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

会社概要



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

データはもっと自由になれる

ユーザーデータを分散させることで無意味化する「秘密分散」技術を活用したサービスをはじめ、「秘密分散」を基に発展させデータを秘匿化しながら活用できる「秘密計算」技術など、安心・安全からイノベーションを生み出していきます。
また、協業する企業のビジネスをよりスムーズに加速させ、マーケットに新しい機会を生み出し、働き方や暮らし方そのものをポジティブに変えていくことこそが、私たちの使命だと考えます。

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

会社概要

会社名	株式会社ZenmuTech
設立	2014年3月4日
代表取締役社長	阿部 泰久
本社所在地	東京都中央区新川2丁目22番1号
従業員数	42名（2026年9月30日時点）
資本金	44,298万円（2026年9月30日時点）
事業内容	秘密分散、秘密計算技術を活用した セキュリティソリューションの開発・販売

暗号化技術を応用した
秘密分散・秘密計算技術を活用した３つのソリューションを展開

第１軸：情報漏洩対策ソリューション

ZENMU Virtual Drive

データを無意味化しPCの利用を安全で快適にする
セキュリティソフトウェア

第２軸：秘密分散ソフトウエア開発キット

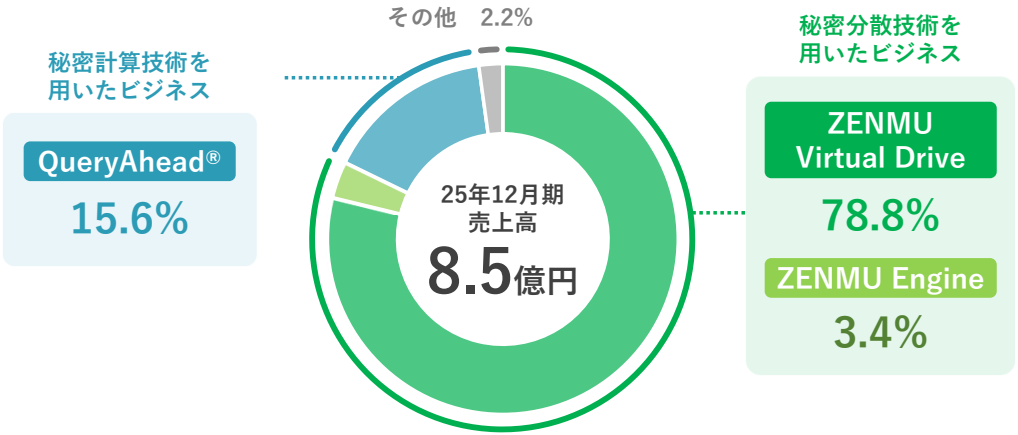
ZENMU Engine

秘密分散技術をプロダクトやアプリケーションに
組み込むためのソフトウェア開発キット

第３軸：秘密計算ソリューション

QueryAhead®

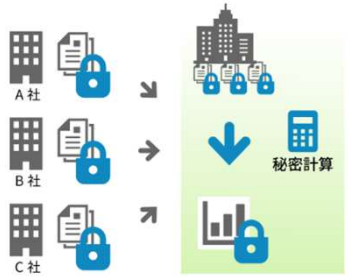
暗号理論などの専門知識不要で秘密計算技術を
プロダクトやアプリケーションに組み込むツール



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

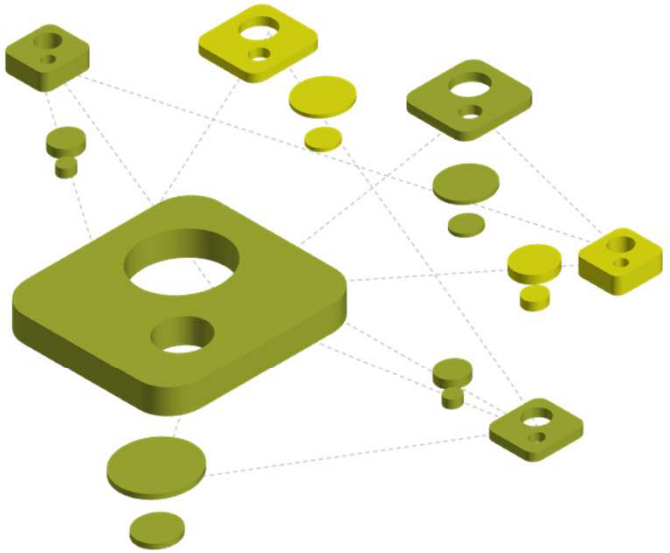
コア技術を活用した　3つのソリューション展開

暗号化技術を応用した秘密分散・秘密計算技術を活用した３つのソリューションを展開

事業	秘密分散ビジネス		秘密計算ビジネス
プロダクト	情報漏洩対策ソリューション **ZENMU Virtual Drive（ZVD）**  データを無意味化しPCの利用を安全で快適にするセキュリティソフトウェア	秘密分散ソフトウェア開発キット **ZENMU Engine**  秘密分散技術をプロダクトやアプリケーションに組み込むためのソフトウェア開発キット	秘密計算ソリューション **QueryAhead®**  専門知識不要で秘密計算技術をプロダクトやアプリケーションに組み込むツール
事業モデル	サブスクリプション契約による ストック型収益	コンサルティング・システム開発等によるフロー型収益モデル →（将来）ライセンスロイヤルティによるストック型収益モデルへのシフトを目指す	

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

カンパニーハイライト



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

カンパニーハイライト

コア技術	社会課題を解決する秘密分散/秘密計算技術
安定成長基盤	ZENMU Virtual Driveの優位性と成長性
成長性	ZENMU Engineと秘密計算の成長ポテンシャル
収益モデル	ストック型を中心とした多様な収益モデル

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

コア技術： 社会課題を解決する秘密分散/秘密計算技術

社会課題の解決 テクノロジーを用いてデータと企業や人の活動をセキュリティ上の制約から解放する

データの保護に関する社会課題

社会のニーズ　サイバー攻撃による被害は年々増加

課題　より高度なセキュリティが求められる時代に



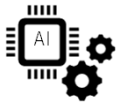
サイバー攻撃関連の通信数(※1)

2014年 約241億 ▶ 2023年 約6,197億

データの利活用に関する社会課題

社会のニーズ　AI・機械学習の活用が加速

課題　精度向上のために膨大なデータを使った学習が必要



世界の生成AI市場規模(※2)

2022年 約1.2兆円 ▶ 2030年 約14.2兆円

従来の、鍵を用いた暗号化技術情報漏えい対策

⚠ 内部不正や人的ミスによりパスワードなどの鍵とともに暗号化した重要情報が漏えいする事態も

⚠ 分析、利用時には復号（元のデータを復元）する必要があるためセキュリティリスクが生じる

暗号化技術に代わるセキュリティ技術が求められている

※1：NICT「NICTER観測レポート2023」を基に作成
※2：経済産業省 中部経済産業局「兆しレポート テーマ：生成AIを活用した働き方改革の兆し」

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

コア技術： 社会課題を解決する秘密分散/秘密計算技術

暗号化技術に代わるセキュリティ技術で新たな価値を提供

	一般的な暗号技術		ZenmuTechの取り組み
データの保存時の保護	○	✓ 従来から暗号化によりデータを保護してきた領域 ✓ パスワードなどの暗号鍵が流出した場合などに解読されるリスクを排除できず[セキュリティ上の課題や運用の負担]となっている	✓ [秘密分散技術]でデータ自体を分割した状態で保管や転送をすることで[暗号鍵の管理を不要にしセキュリティリスクや運用負担を改善] ✓ 分割する（小さくする）ことで保存や通信のコストなどの課題にもアプローチ
データの転送時の保護	○		
データの処理時の保護	×	✓ 暗号化したままでは閲覧や計算はできず[データを復元する必要があり漏洩や改ざんのリスクが生じてしまう]	✓ 秘密分散技術を応用して[データを秘匿化したまま計算する秘密計算技術]を研究、事業化へ取り組む

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

社会課題を解決するコア技術　秘密分散技術

新発想のセキュリティ
サイバーセキュリティ技術は「防ぐ」から「無意味化」へ



元データ

ZenmuTech特許取得

独自技術

自社開発
独自の秘密分散アルゴリズム
「ZENMU-AONT」

現状　通常の暗号化



暗号化された「元データ」を保存

復元



暗号鍵の漏えい、解読などにより、元データが解読されるリスクがある

- 暗号は、鍵をパスワードに変えて管理
- 管理するのは、不確実性の高い人間
- 忘れる、使いまわす、盗まれる、解かれる

課題

✓情報漏洩のおそれ

✓パスワードは増え続けることで管理が難しくなり、同一のパスワードを使い回す懸念

進化　秘密分散



データを「無意味化」して分散保管

2つを重ねて初めて復元

復元



データの無意味化で、元データが解読されるリスクなし

- 暗号化した上で、鍵ごと無意味なデータに分散管理
- 分散した無意味なファイルが揃わないとデータが復元しない

解決

✓データの分散片が保管されているデバイスの紛失や盗難されても、管理者が分散片へのアクセスを停止することでデータ復元は不可能

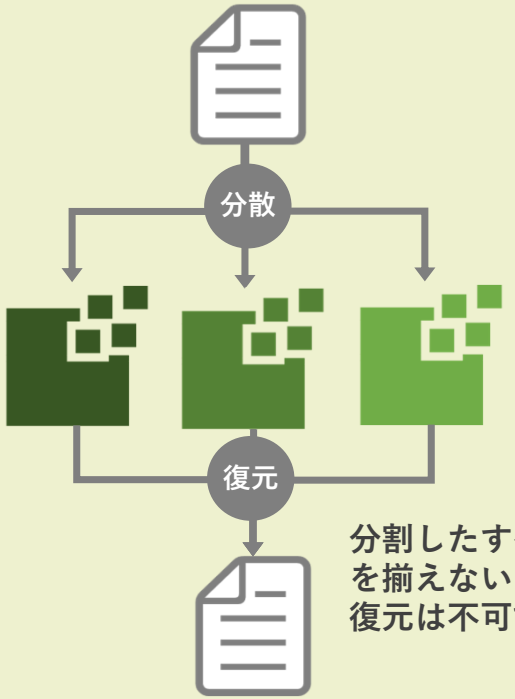
✓社外へのPCの持ち出しやリモートワーク等の際、紛失・盗難時の有効な対策になり得る

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

社会課題を解決するコア技術　秘密分散技術　～ZENMU-AONTの特色～

分割前後でデータの総量が変わらないAONT方式を採用し、分散片の小サイズ化、高速化をさらに追求
低速通信環境や記憶容量の少ないデバイスでも利用が可能

当社　**All or Nothing Transform方式**



分割したすべての分散片を揃えないと元データの復元は不可能

特徴

- ✓分散片がすべて揃わないと復元できないためより厳格なセキュリティ性を持つ
- ✓分散後の総データ量は元データとほぼ同じ。また、分散片のサイズ比を任意に設定可能（元データ100に対し99:1や33:33:33:1など）
- ✓しきい値分散と比較して分散・復元の処理速度は高速であり、分散片の一方を小さくすることで通信などに適した運用が可能

独自技術

自社開発
独自の秘密分散アルゴリズム
「ZENMU-AONT」

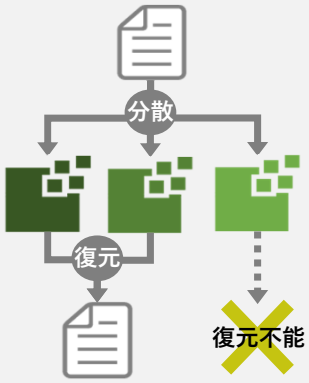
- ■AONTの特徴である分散片の小ささを更に追及、最小32バイトまで可能
  → 低速通信環境やエッジデバイスでも利用が可能
- ■分散片をより小さくすることで処理速度も更に向上
- ■安全性についても理論的検証を実施

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

技術としての競合状況　～有力な競合のいないニッチな技術領域～

秘密分散技術の中ではAONT方式は後発かつ非主流派の理論
主流である「しきい値分散方式」の技術をもつＩＴ大手企業もあるが当社が主力とするＰＣ向けには不向き

主流派　しきい値（閾値）分散方式



例：3個に分散したうち
2個揃えれば復元可能

あらかじめ定めた任意の数（＝しきい値）の分散片を揃えることで元データの復元が可能
例）2/3、3/4…など

特徴

◎分散片の一部がなくとも復元可能
→重要データのBCP（事業継続計画）DR（災害復旧）に適している

×分散片一つ一つのサイズは元データとほぼ同じ
例.3分散すると総データ量は元の約3倍
保存や転送、処理時間が増加

大手IT企業などを中心に
2000年代初め頃から
研究、製品化、普及せず

- **必ず3つ以上に分散、それぞれの保管や復元など運用の煩雑さ**
- **しきい値分散方式の特性により総データ量は増加するため、保存や転送に負担**
- **PCやモバイルデバイスなどには不向きな方式**

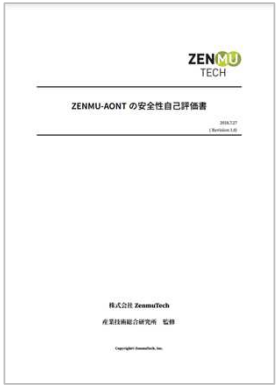
参入障壁

- 暗号理論の一分野である秘密分散、その中でも主流でないAONT方式について有力な研究者や企業は限定的
- 主流のしきい値分散方式について技術蓄積のある大手企業の関心は応用技術である「秘密計算」（後述）に関心が移っている
- 当社の特許等によるブロックにより権利侵害を迂回した新規開発が必要
- AONT方式を新たに採用して、新規開発するよりも当社の**ZENMU Engine**を利用したほうが経済的合理性（開発期間の短縮、品質・機能）が高い。

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ZENMU-AONTの安全性

産業技術総合研究所の監修のもとZENMU-AONTの安全性自己評価書を作成
共著論文としてまとめ、査読付きの国際学会でも発表



2018年7月27日　産業技術総合研究所監修のもと安全性自己評価書を作成

評価方法
- ✓ Anand Desaiによる攻撃モデルを用いて計算量的安全性※を評価
- ✓ 単に理論上の安全性だけではなくソフトウェアとしての実装実現性と実用性についても評価

結論
理論面と実装面の両方において十分な安全性を有し実用的な方式である

監修コメント
ZENMU-AONT は通常想定される利用形態において安全であるものと判断できる
（産業技術総合研究所サイバーフィジカルセキュリティ研究センター 首席研究員 花岡悟一郎博士）

- ✓ **2019年にはZENMU-AONTのアーキテクチャおよび理論的安全性検証等を産業技術総合研究所との共著論文「An Extended CTRT for AES-256」として発表**
- ✓ **暗号・情報セキュリティに関する国際会議であるThe 20th World Conference on Information Security Applications（WISA2019）においてBest Paper Awardを受賞**



※：計算量的安全性＝暗号の解読や署名の偽造などを計算問題として定式化し、これを解く最も効率のよいアルゴリズムの計算量をもって暗号の安全性の評価尺度とする。
暗号解読に必要な計算量が利用できる計算機の能力に比較して膨大であり、現実的時間では実行不可能である場合に計算量的に安全と考えるもの

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

社会課題を解決するコア技術　秘密計算技術

暗号化や秘密分散により秘匿化されたデータを復号・開示せずに
演算・分析し必要な結果だけを得ることが可能

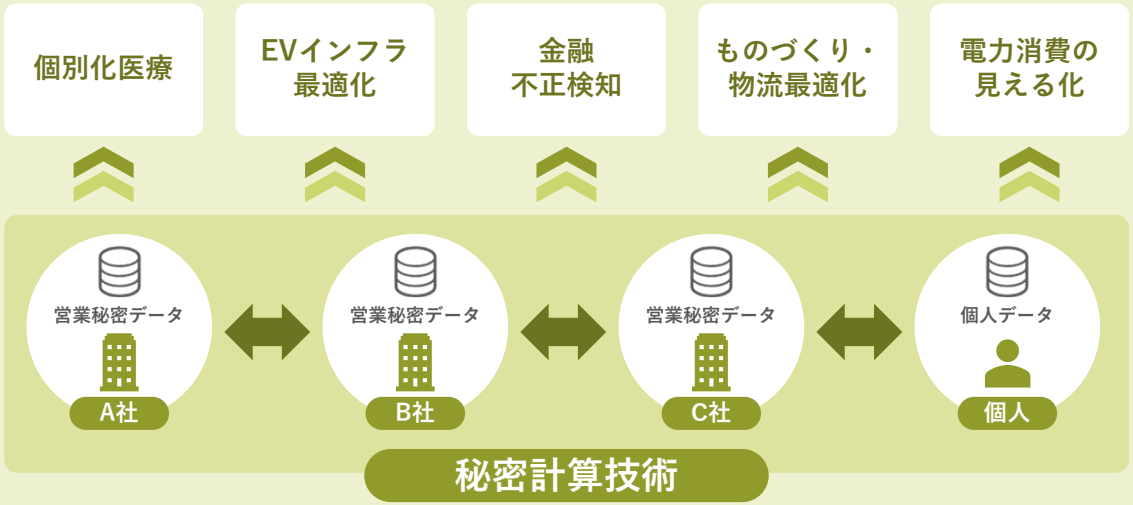
**産業技術総合研究所と
共同で研究開発**

現状の課題



- ✓ **企業同士がデータを共有するには機密性の高いデータの取得と共有が障壁**
- ✓ **大量のデータを使う場合や、複数企業から学習データを提供される場合、あるいは個人情報などの慎重な取り扱いが必要な場合には、データを一ヵ所に集めることは大きなリスク**

秘密計算技術による解決



暗号化や秘密分散によって秘匿化したまま計算

- 複数の金融機関の取引情報を結合することによる不正取引検知の精度向上
- ゲノム情報や診療情報を安全に解析することによる創薬やオーダーメイド医療への活用
- 複数の企業を横断し1社単独では困難なサプライチェーン全体の効率化

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ビックデータを秘匿化したままで活用できる秘密計算への期待

AI・機械学習の活用加速の一方で、
機械学習やAIモデルの精度向上
には膨大なデータを使った
学習が必要

各企業のデータを
共有する場合機密性
の高いデータの取得
と共有が障壁

複数企業から
大量データや個人
情報データを一ヵ所
に集めることは
大きなリスク

QueryAhead®

秘密計算技術により
データを秘匿化した
まま活用可能

- 機密データ同士の交流
  によるイノベーション促進
- 秘密計算アウトソーシング
  による分析効率化

秘匿性を保ったままのデータ解析や
分析、アウトソーシング化などで
データ分析によるイノベーションや
ビジネス効率化を促進

社会のニーズ　課題　解決　社会へのインパクト

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

コア技術

社会課題を解決する秘密分散/秘密計算技術

安定成長基盤

ZENMU Virtual Driveの優位性と成長性

成長性

ZENMU Engineと秘密計算の成長ポテンシャル

収益モデル

ストック型を中心とした多様な収益モデル

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

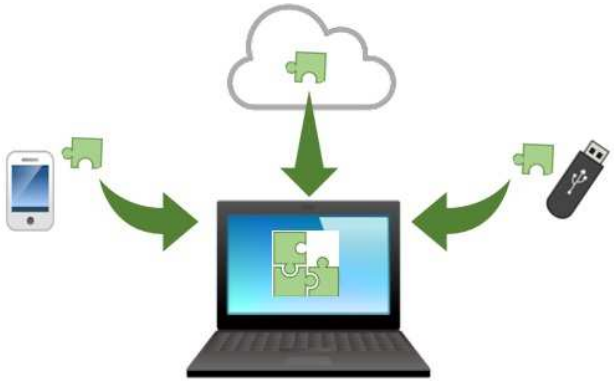
情報漏洩対策ソリューション 「ZENMU Virtual Drive」 概要

ZENMU Virtual Drive

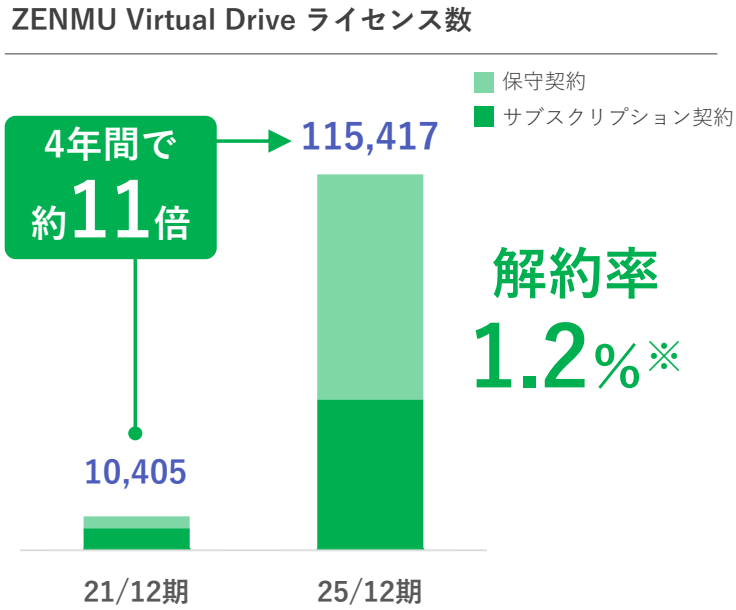
秘密分散技術によりPC内のデータを無意味化して分散、分散片が揃った時のみPC上にデータが復元
既存のソリューションにかわる情報漏洩対策

ZENMU-AONTにより1kbの分散片を外部保存するだけでPC内のデータを無意味化

通信環境への依存度が高い従来ソリューションに対し、オフラインや低速環境でもPCを快適に使用可能



各デバイスに分散保管された
無意味なデータを
PC上でマウント(結合)



データ保護ができる

PC紛失の際にも、本人や管理者が分散ファイルへのアクセス停止をおこなうことPCへのアクセス防止が可能

働く場所に依存せず快適に仕事ができる

分散片はスマホやUSBメモリーでも同期可能なので、ネットワーク環境に頼らずオフラインでも安定して利用可能

管理者負担が軽くコストも低減

重厚なサーバーやネットワークが不要なので、管理者の負担が軽く導入、運用のコストも縮小

企業規模に依存しない

FAT-PC形式で対応可能で導入、運用のコストが低いので小規模企業でも導入可能

短期間で利用開始が可能

ポリシー設定のみで、導入決定から1ヶ月程度で利用可能

※：24年12月末～25年12月末の1年間におけるZVDサブスク契約の解約ライセンス数 ÷ 2024年12月末時点でのライセンス数

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

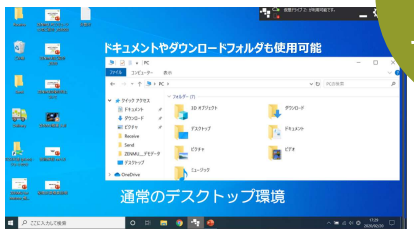
情報漏洩対策ソリューション 「ZENMU Virtual Drive」 概要

ZENMU Virtual Drive

秘密分散技術によりPC内のデータをPCとクラウドに分散

分散片が揃った時のみPC上にデータが復元



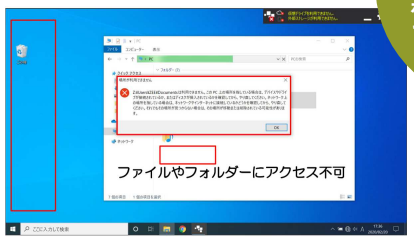


クラウド上の分散ファイルと合わせてデータを復元

PCの紛失・盗難時にはユーザー本人または社内管理者がクラウド上の分散片へのアクセスを遮断

分散片が揃わないとPC上では何も見えない状態





未接続時、PC内には無意味な分散ファイルのみ

- ✓ **クラウドに保存する分散片のサイズは1kbと小さく、低速通信環境やクラウドへのアクセス集中時でも影響をうけにくい**

  競合するVDIやデータレスPCは画面転送やファイルの転送を行うため通信量が大きく通信回線やサーバーの状況によってパフォーマンスが低下

- ✓ **紛失・盗難後、PCが回収できた場合にはクラウド側へのアクセスを再開することで元のデータをそのまま利用可能**

  PCにデータ消去指示を送る遠隔消去ツールは成功率に課題。また、消去後の復元も不可能

- ✓ **クラウドへのアクセスログから紛失・盗難中の不正アクセスの有無自体を把握可能**

  情報漏洩がなかったことの証明が可能

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

市場動向 「ZENMU Virtual Drive」 ニーズの高まり

ZENMU Virtual Drive

コロナ禍以降のリモートワークの拡大、定着にともない業務用PC持出時のセキュリティ対策への需要も拡大
従来のPC向け情報漏洩対策ソリューションの課題に応えるセキュアFATに需要が高まる

1990年代～

データや
アプリケーションを
ローカル（PC内）に保持
（FAT PC）

業務用端末としてPCが普及するにつれて、内部データの漏えいに対するセキュリティリスクに注目

課題

データをPC内に保持しているため、情報漏洩リスクに課題

2000年代中頃～

FAT PCのセキュリティ課題に対し
データをローカルに保存しない
シンクライアント※1の導入が拡大

データの保管や処理をサーバー側で行い
セキュリティ性や一元管理に強み
仮想デスクトップ（VDI※2）方式が普及

課題

サーバーへの接続が必須でありオフラインでは使用できず、サーバーの処理能力や通信回線が逼迫することで生産性が低下
大規模導入になるほどインフラ投資も必要となりコスト負担も大きい

2010年代後半～現在

データをローカルに保持しながらも
安全性の高いセキュリティが施された
セキュアFATの登場

ZENMU Virtual Drive

従来のFAT端末のセキュリティ課題、シンクライアントの生産性、コスト課題の両方に応えるものとして「セキュアFAT」が登場。当社ZENMU Virtual Driveもその一種。



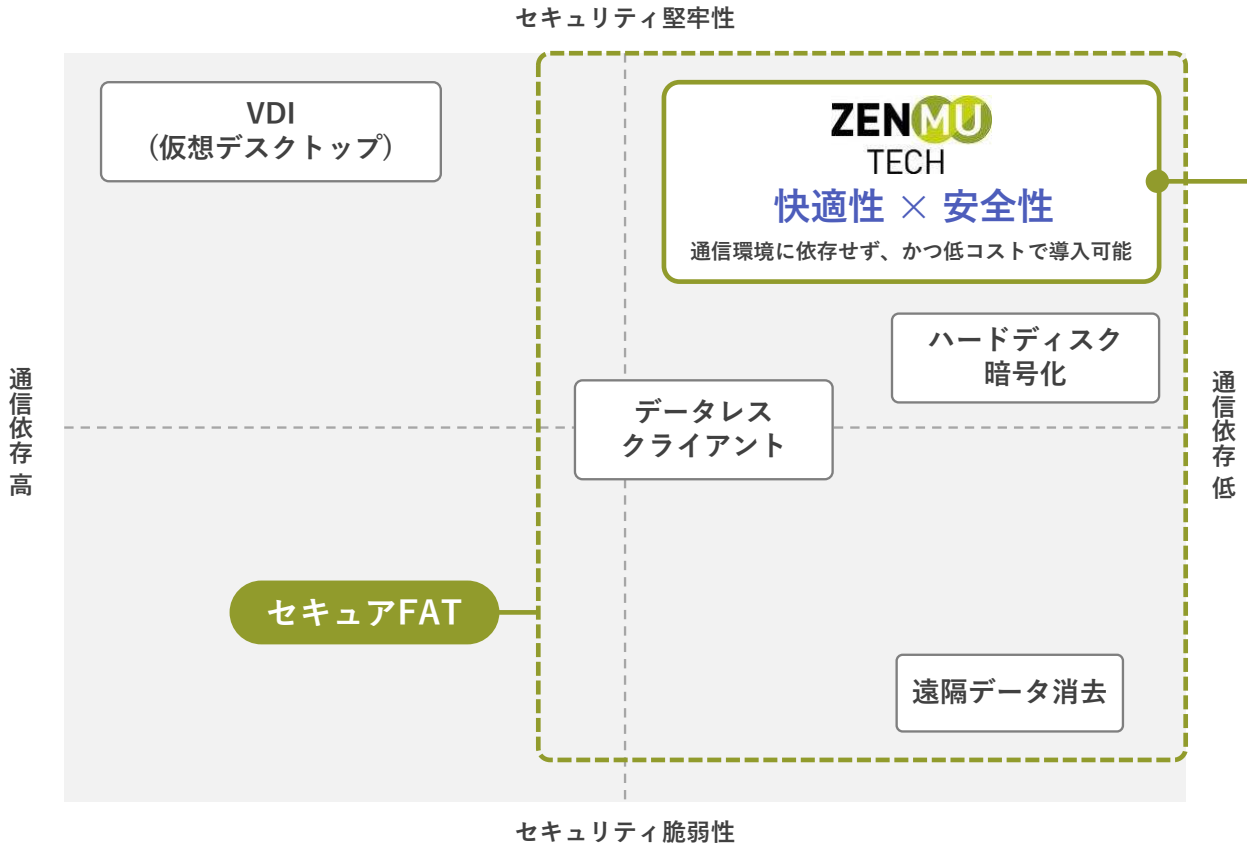
※1：シンクライアント…企業などの情報システムにおいて、ユーザーが使うPC等のクライアント端末に必要最小限の処理をさせ、ほとんどの処理をサーバー側に集中させることでソフトウエアやデータなどの資源を管理
※2：VDI…デスクトップ環境を仮想化してサーバー上に集約したものであり、利用者はシンクライアントPCからネットワークを通じてサーバー上の仮想マシンに接続し、デスクトップ画面を呼び出して操作

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

プロダクトポジショニング①

ZENMU Virtual Drive

「ZENMU Virtual Drive」はVDIのデメリットを解消
且つ、通信依存度の低さからなる快適性と低コスト、安全性を両立



✓快適性

AONTの特性を活かし1kbの分散片のみクラウド上に保存。通信速度やサーバーの処理能力に依存せずに利用できるため低速環境やネットワークのアクセス集中による影響を受けにくい

✓安全性

秘密分散技術によりデータを無意味化してPC内とクラウドに分散保管するため、クラウドの接続をロックすればPC内のデータは無意味なものとなり、盗難・紛失時も情報漏洩を防ぐことができる

✓低コスト

クラウド基盤のサービスのため、サーバーの新規購入や設計・構築費用等は一切不要
自社開発であるため海外製品と比べライセンスも相対的に安価

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

プロダクトポジショニング②

ZENMU Virtual Drive

「ZENMU Virtual Drive」はVDIのデメリットを解消
且つ、通信依存度の低さからなる快適性と低コスト、安全性を両立

プロダクト	VDI（シンクライアント）	データレスクライアント	ZENMU Virtual Drive
概要	サーバー上でデータを処理、保存し 手元の端末に画面転送	PC内でデータを処理するが データはサーバー上に保存	**PC内でデータを処理し PCとクラウドに分散保管**
安全性	データは端末上には一切存在しない	データはPC上に残らないが、 キャッシュが残る場合もある	**PC内には 無意味な分散ファイルのみ**
操作の快適性 パフォーマンス	画面転送のため通信量が大きく 通信環境およびサーバーの処理能力に 左右される。サーバーへのアクセス 集中などによりパフォーマンス低下	処理は通常のPCとほぼ同等、 データの読み書きは通信環境に依存	**通常のPCとほぼ同等 サーバー等外部との接続は 1kbの分散片のみ**
１ユーザー あたりの費用	オンプレで年額250,000円程度 クラウドで年額50,000～100,000円程度	年額10,000～25,000円程度、 他にサーバーコストも必要	**年額 21,600円**
通信環境への 依存度	通信環境のない場所では 利用できない	基本的に通信環境のない場所では 利用できない	**通信環境に依存しない オフラインでも利用可能**

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

導入事例（大手コンサル企業グループ）

ZENMU Virtual Drive

ZENMU TECH

A社

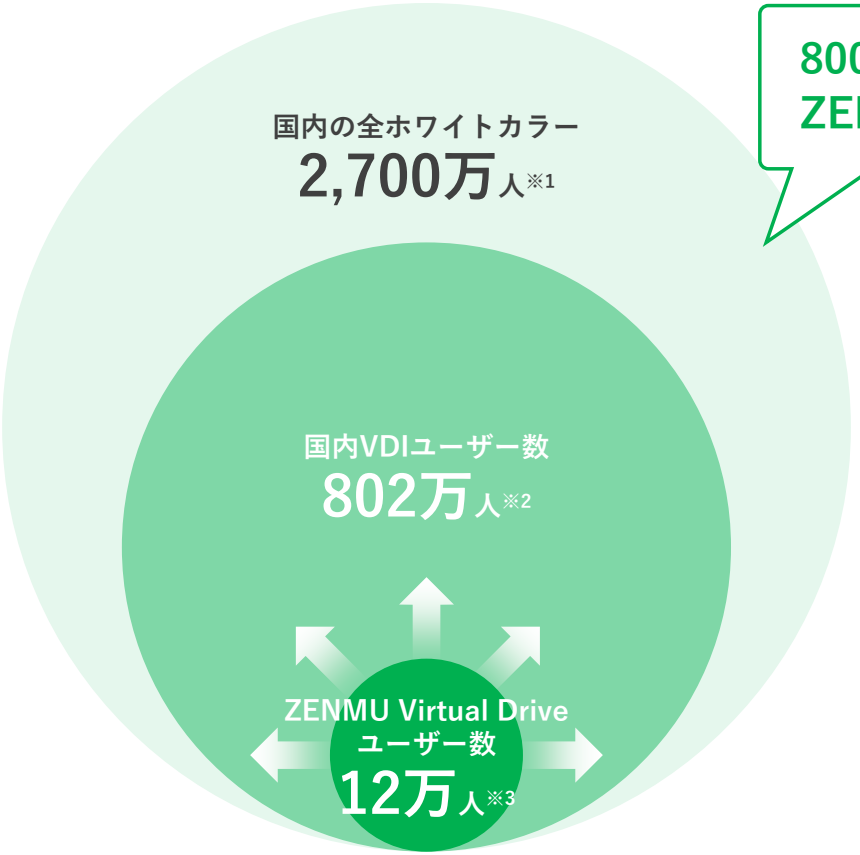
VDI下のパフォーマンスに大きな不満、
業種柄、移動が多くネットワーク品質に左右される余地が大きい
→ 導入後の利用者アンケートはおおむね好評、現在2万4,000ライセンスまで拡大

導入前		導入後
✕ グループ各社で業務内容、業務用アプリが異なるため必要な性能に応じたVDI環境の設定が必要。煩雑かつコストの制約から対応に限界	»	✓ **端末のセキュリティコスト削減 VDIサーバーも移行完了時には撤廃の方針**
✕ 業務・拠点の関係で小刻みな移動が多く、VDIのセッション切れで時間ロスが大きい	»	✓ **移動時の起動や操作の点で従来よりパフォーマンス向上、 ユーザアンケートでは9割が評価**
✕ パフォーマンスに対する潜在的な不満がある	»	✓ **VDI同等のセキュリティを確保しながら、 パフォーマンスは改善**

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ZENMU Virtual Driveの優位性と成長性

既存の国内VDI市場は８００万人規模、リモートワーク/ハイブリッドワークの定着により安定成長見込
ZVDはVDIに対する優位性をばねに市場を獲得していく



**800万人以上の国内VDIユーザーに対し現時点での
ZENMU Virtual Driveのユーザー数は約１％と獲得余地は大きい**

対 VDI市場戦略（置き換え、共存戦略）

セキュリティの高さの反面、サーバー、ネットワークまで
含めたコストの高さや、ユーザーの生産性に課題

➡ **低コスト、通信依存の低さによる快適な生産性を訴求**

対 非VDI市場戦略

PC内のデータ保護に対する需要はあるが
コストや導入・運用の負担からセキュリティ手つかず

➡ **低コスト、簡便性など導入・運用のしやすさを訴求**

※1：労働力調査（令和5年総務省）の基づく全就労者数と国勢調査（令和2年）に基づくホワイトカラー比率から推計。
※2：VDIユーザー数:2024年実績値 2025年5月IDC市場予測資料
※3：2026年9月現在、買い切りライセンスによる保守契約を含む

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ZENMU Virtual Driveの製品としての課題と今後のロードマップ

ZENMU Virtual Drive

ZENMU TECH

課題① マルチデバイス対応

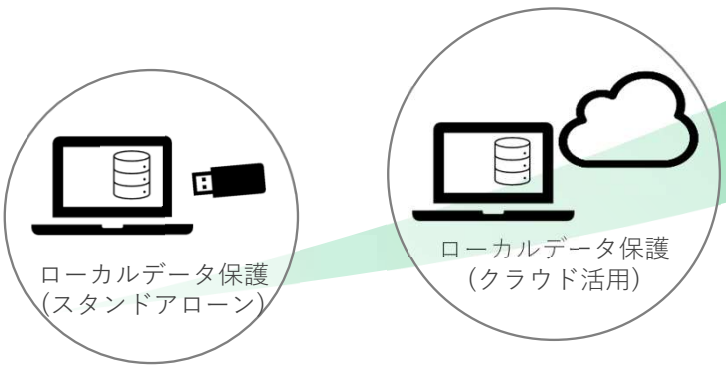
VDIの利点としてサーバーにデータが集約しているためどのPCからアクセスしても同じ環境、同じデータが使用可能

一方でZENMU Virtual DriveはPC内と外部デバイスにわけて保管している分散片を結合して復元するためＰＣの使いわけは不可能

対応策 ネットワーク／クラウドデータ保護製品の開発

今後の通信環境の向上を見据えてPC内ではなくクラウド側のデータを秘密分散で保護する製品を企画中。ＰＣだけでなくスマートフォンやタブレットでも同じデータに接続可能なマルチデバイス対応を実現

ZENMU Virtual Drive
＝ローカルデータ（PC内のデータ）を保護



通信環境の飛躍的向上



課題② セキュリティとしての限定的な用途

ZENMU Virtual Driveのセキュリティとしての提供価値は紛失、盗難時などへの漏洩防止がメインでありマルウェア対策やデバイス管理などエンドポイントセキュリティとして求められる機能の一部にとどまる

対応策 連携製品の拡大によるトータルソリューション化

デバイス管理、バックアップ、認証など他社のセキュリティ製品との同時利用により総合的なセキュリティを実現を図る

2024年12月に設立された複数のセキュリティ企業によるトラストセキュリティコンソーシアムに参加。単一製品ではないことを活かしユーザーのセキュリティ方針や運用に合わせた組み合わせ提案により営業面でも連携

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

カンパニーハイライト

コア技術

社会課題を解決する秘密分散/秘密計算技術

安定成長基盤

ZENMU Virtual Driveの優位性と成長性

成長性

ZENMU Engineと秘密計算の成長ポテンシャル

収益モデル

ストック型を中心とした多様な収益モデル

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密分散ソフトウェア開発キット「ZENMU Engine」 概要

ZENMU Engine

自社開発の秘密分散技術「ZENMU-AONT」をソフトウェア開発キット（SDK)※として提供
秘密分散技術を他社のプロダクトやアプリケーションに組み込むことが可能

セキュリティやコストの問題を解決する
新たなソリューションを開発して
使用又は販売したい



DEVELOPER

SDKとしての提供価値

- ✓開発時間の短縮
- ✓品質や開発コスト

ZENMU-AONTを組み込むメリット





ZENMU Enigneを組み込むだけで
秘密分散機能を実装

ひとかたまりで保管、通信する暗号化に対して分散（小さく分割）することで
セキュリティ課題だけでなく保管、通信上の課題にもアプローチが可能

※：特定のシステムに順応したソフトウエアを開発するために必要なプログラムなどをパッケージしたもの。

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ZENMU Engine　組み入れ適用例

ZENMU Engine

ZENMU TECH

ZENMU Engine

ブロックチェーンとの連携



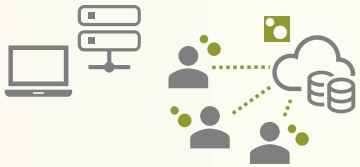
データ(映像等)配信



認証強化

データ保護強化

安心・安全なパブリッククラウドの利用



保存データの保護

IoT機器のデータ収集での通信コストの削減



家や車のキーをウェアラブルデバイス等に分散



あらゆる家電の制御データの分散や認証

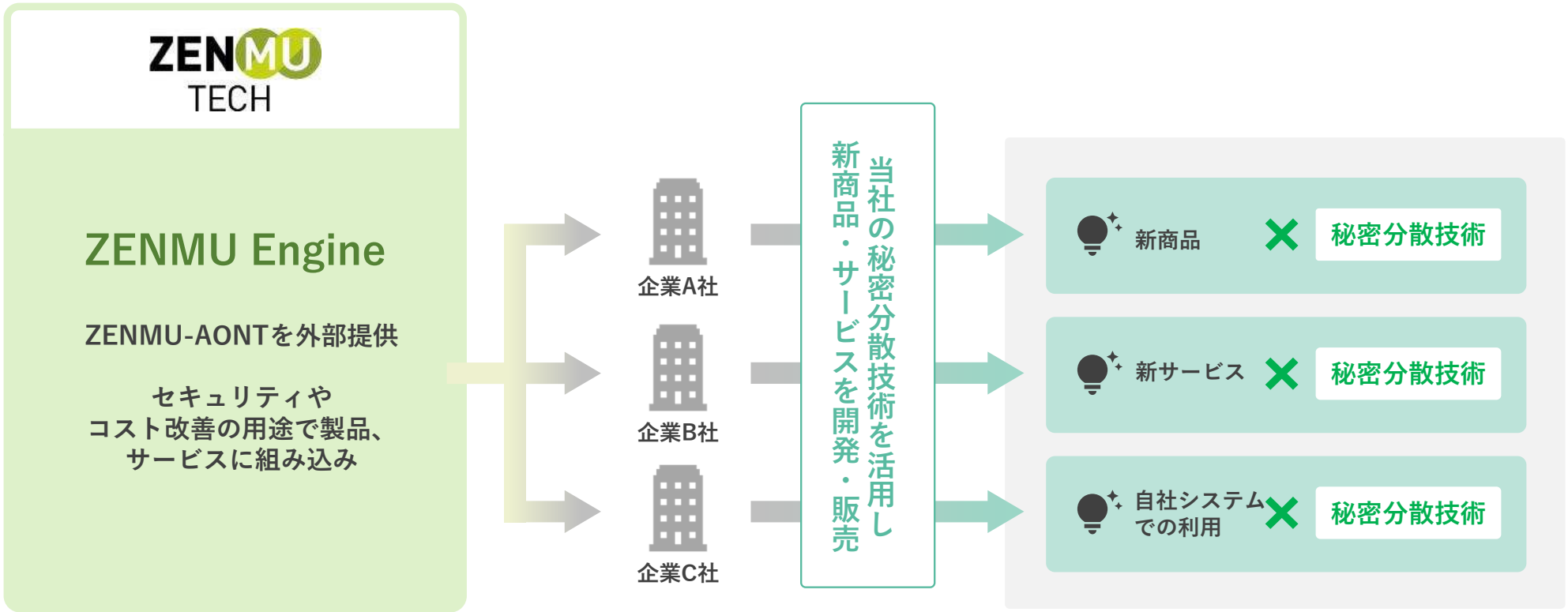
エッジデータの保護

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

当社のコア技術とアライアンス戦略で新たなサービス・商品の創出支援

ZENMU Engine

ZENMU-AONTを利用しセキュリティ課題やセキュリティコストを改善するソリューションを創出
販売収益からロイヤルティを獲得



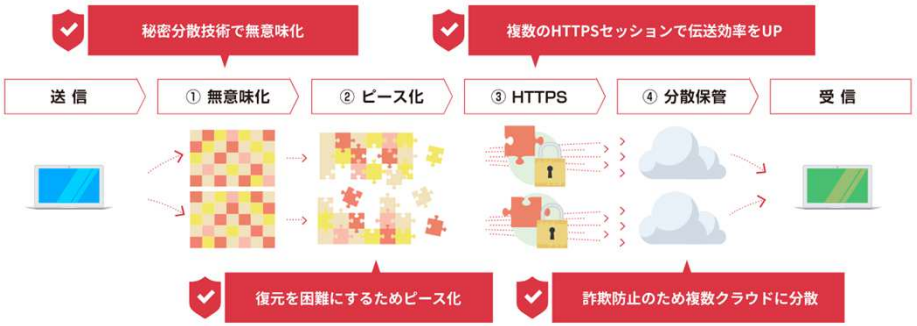
Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

アライアンス実績

ZENMU Engine

日立システムズ
グローバルセキュア転送サービス

秘密分散を含めた４重のセキュリティ技術で
高価な専用線を必要とせず安心な拠点間転送を実現



海外の製造・開発拠点などへの図面・CADデータ転送を安全かつ容易に。クラウドストレージへのセキュリティ面での不安解消や物理輸送や高価な専用回線に代わりコスト削減にも効果

日立システムズ
秘密分散フォービデオ

監視カメラ映像を安全にクラウドに分散保管、
カメラの稼働状況を24時間365日体制で監視



プライバシー含む撮影データを安全にクラウドに分散保管

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

「ZENMU Engine」 適用領域の市場規模

ZENMU Engine

ZENMU TECH

ZENMU-AONTを用いた暗号化とは別のアプローチでセキュリティ課題を解決し市場拡大への貢献を図る



車載データ保護・管理

市場ポテンシャル

約319億ドル(※1)

2030年(世界市場)

※スマートキー



ブロックチェーンと様々なコンテンツの組み合わせ・管理

市場ポテンシャル

約7,247億円(※2)

2025年(国内市場)



防犯カメラ内データの保護

市場ポテンシャル

約6.4兆円(※3)

2026年(世界市場)



ドローン内のデータ保護

市場ポテンシャル

約9,054億円(※4)

2028年(国内市場)

※1：Global Industry Analysts, Inc.「自動車用スマートキーの世界市場」
※2：矢野経済研究所「2021 ブロックチェーン活用サービス市場の実態と将来展望
※3：矢野経済研究所「2021年度版 ネットワークカメラ／VCA画像解析システム市場」
※4：インプレス総合研究所「ドローンビジネス調査報告書2024」

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

成長分野のドローン市場で実証試験に成功

ZENMU Engine

アライアンスパートナーであるネクストウェア株式会社と株式会社アイ・ロボティクスと共に、ドローンや移動型ロボットに搭載する技術「インテグリティ・ドローン」の実証試験に成功

市場課題

産業領域や物流領域における有翼型・マルチコプター型の無人航空機であるドローンの活用の用途の広がり

▼

災害時の情報収集等に警察・消防でもドローンや自律移動型ロボットの導入が推進される※

▼

ドローン、ロボットの機体には、自律移動用のプログラムや飛行経路の情報、撮影したデータ等の機密情報を多数含んでおり、予期せぬ落下等の事故による情報漏洩のリスクがある

ZENMU Engine活用による解決

Next-Ware × ZENMU TECH × iROBOTICS

秘密分散ソリューションを組み込むことで
ドローンのデータを瞬時に無意味化し情報漏洩を防止

▼

実証試験の結果、秘密分散技術が安価・軽量・鍵管理不要かつ既存ドローンへの後付けが可能であることが明らかに
産業現場への即時導入が期待できる実践的な
セキュリティソリューションとなることを証明

▼

実用化に向けて、専用チップの開発、ソフトウェアSDKの提供、
標準化推進を通じた産業界への広範な展開を目指す

※：警視庁「国家公安委員・警察庁防災業務計画」第１-２多様な情報収集手段の整備

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密計算ソリューション 「QueryAhead®」 概要

秘匿性の高いデータを秘密分散により分割、無意味化したまま計算
暗号技術や秘密計算の専門知識を持たずともアプリケーションに
組み込んで利用することが可能

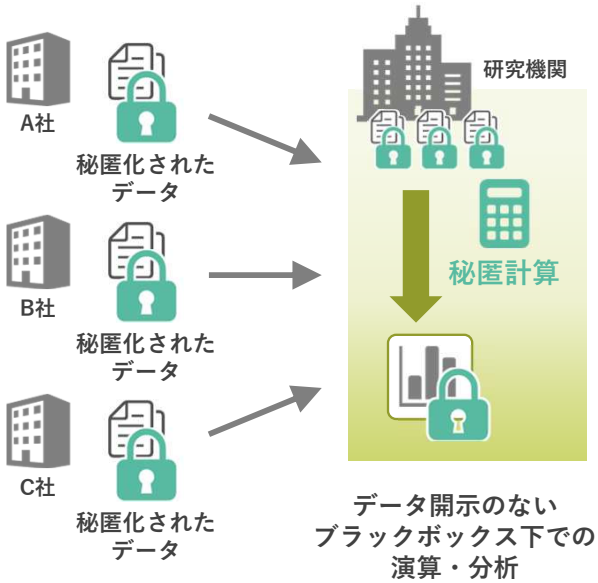
QueryAhead®

**産業技術総合研究所と
共同で研究開発**

データ活用における課題

- ✓個人情報など秘匿性の高い
  データの利活用の促進が
  ハードルが高く進まない
- ✓他企業協業による
  イノベーションをしたいが、
  機密データの情報共有が
  ボトルネック
- ✓秘匿性の高いデータを
  第三者が分析する際に、
  漏洩や改ざんのリスクが発生

QueryAhead®によるソリューション



**暗号化したデータを
復号することなく
計算処理を実行**

**暗号技術などの専門知識は不要
PythonとSQLでクエリー可能**

**社内でのデータ利活用から
外部組織との連携まで
幅広い用途で利用**

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

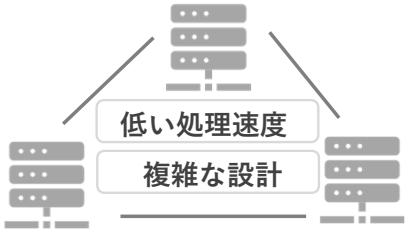
産業技術総合研究所との協力で秘密計算市場をリード

秘密計算 QueryAhead®

ZENMU TECH

産業技術総合研究所の新技術×当社の秘密分散技術事業化の実績を活かし秘密計算技術の実用化を目指す

秘密計算実用化における課題



- 計算処理が複雑であるため、演算処理が遅い
  ▼
- 高速化のためコンピュータ3台を連携させる方法が主流、システム設計が複雑化するほか高い導入コストがかかる

導入障壁が高い

産業技術総合研究所の技術



世界最速の秘密計算技術を実現※1

2台のコンピュータ構成で計算を高速化する新技術の開発に取り組み、秘密計算の基本的な処理工程を従来の100倍以上高速にすることに成功

×

当社の技術

産業技術総合研究所の新技術を「QueryAhead®」に実装

暗号技術の知識がなくても
システム構築できるような仕組みを実現

導入障壁を緩和し秘密計算の事業化を促進

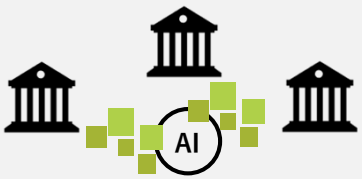
※1：計算サーバが2台における特定の場合に、世界最速の計算速度を達成した。（詳細はこちらの論文で発表している。Nuttapong Attrapadung, Goichiro Hanaoaka, Takahiro Matsuda, Hiraku Morita, Kazuma Ohara, Jacob C. N. Schuldt, Tadanori Teruya, and Kazunari Tozawa. 2021. Oblivious Linear Group Actions and Applications. In Proceedings of the 2021 ACM SIGSAC Conference on Computer and Communications Security (CCS '21). Association for Computing Machinery, New York, NY, USA, 630–650. https://doi.org/10.1145/3460120.3484584）

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

秘密計算 「QueryAhead®」 適用領域

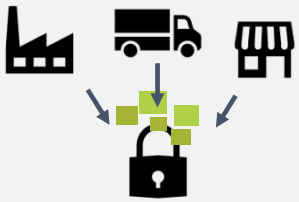
AI・機械学習の活用に伴い、複数の企業などから大量の機密データを一か所に集めて活用
新サービス創出による売上拡大や研究開発、製造コストの改善に寄与することでマネタイズを図る

適用領域の一例



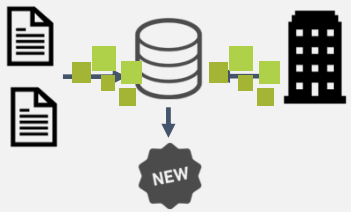
金融・不動産

各銀行が持つ取引データを秘匿化したまま不正検知AIモデルを構築し、共同利用することで業界全体で不正防止を進めることが可能
不動産分野では互いに情報を伏せたまま秘匿マッチングなどに期待



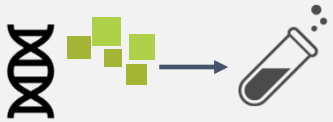
製造・物流

サプライチェーンを構成する企業全体に秘密計算を適用し、各社の機密は維持したまま、企業をまたいでボトルネックを可視化し、購買、製造、物流の多岐にわたって最適化することにより競争力を向上させる



材料開発

個別のデータを秘匿化したまま企業間を越えたデータ連携を行いAIによる実験モデルの精度を向上。開発期間を大幅に加速しコスト改善や競争力向上につなげる



ヘルスケア

個人情報を含んでいるDNA情報や疾病情報などを各医療機関、製薬会社等とデータを秘匿化したまま共有、分析することで、より最適な創薬や医療サービスが提供できる可能性

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

カンパニーハイライト

コア技術	社会課題を解決する秘密分散/秘密計算技術
安定成長基盤	ZENMU Virtual Driveの優位性と成長性
成長性	ZENMU Engineと秘密計算の成長ポテンシャル
収益モデル	ストック型を中心とした多様な収益モデル

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ZENMU Virtual Driveのストック型収益を主力とした多様な収益モデル

ソリューション	ZENMU Virtual Drive		ZENMU Engine		QueryAhead®
収益モデル	ストック型	フロー型	ストック型	フロー型	フロー型
	✓ライセンス利用に伴う保守契約 ✓ライセンス契約と保守契約、アップデート対応が一体となったサブスクリプション契約	✓ライセンスのみの一括販売契約	✓ライセンス利用に伴う保守契約 ✓OEM商品の売上に伴うロイヤリティ契約	✓ライセンスのみの一括販売契約 ✓OEM商品を開発する際のコンサルティング契約	✓試用ライセンスの販売契約 ✓PoCや実証研究などの受託役務
売上に占める割合 （2025年12月期）	78%		3%		15%

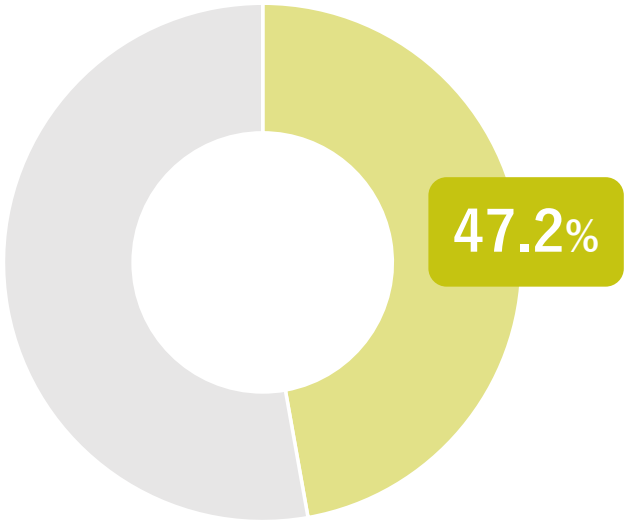
Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ストック型収益をメイン安定的に収益拡大

2025年12月期は、2件の大型案件受注により一時的にフロー売上が増加したものの、依然としてストック売上は全体のうち約4割を占める

	2023/12期	2024/12期	2025/12期
ストック売上高	192百万円	278百万円	402百万円
フロー売上高	248百万円	370百万円	449百万円
売上高合計	440百万円	648百万円	851百万円

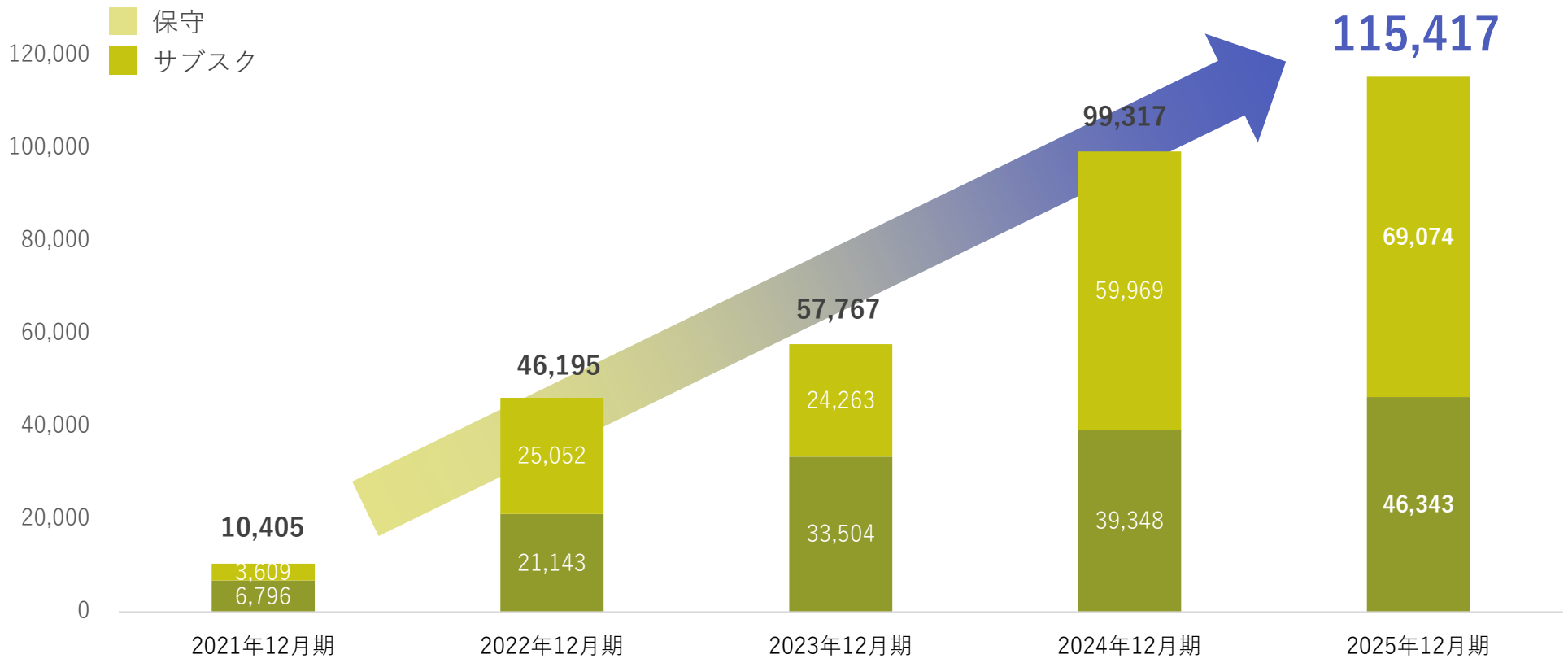
2025年12月期
ストック売上割合



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ストック型収益の源泉であるZVDのライセンス数は大きく増加

1社あたり1万ライセンスを超える大規模利用顧客の増加によりZVDのライセンス数が
2022年12月期以降、大きく増加しストック売上の基盤を形成



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

ソリューション別収益モデル

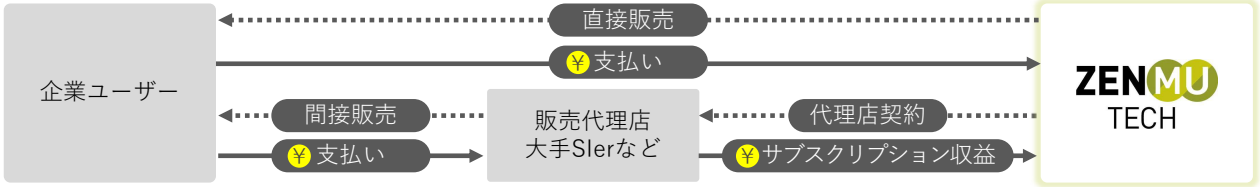
安定成長基盤

情報漏洩対策ソリューション

ZENMU Virtual Drive

ストック型　フロー型

システム更新などのPC買い替え時に、販売代理店による間接販売で導入を拡大、
サブスクリプション収益を獲得　※要望があればOEM商品開発のための当社の技術者によるコンサルティング費用発生



＋

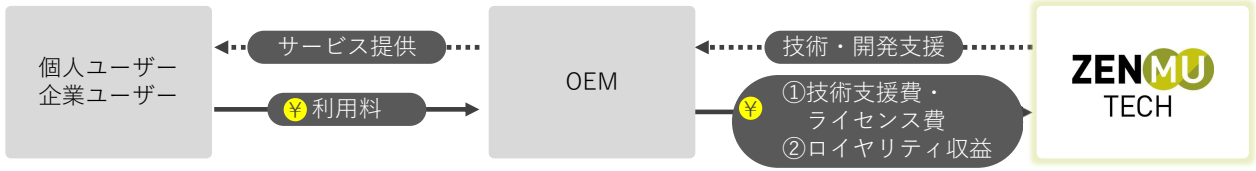
中長期的な成長基盤

秘密分散ソリューション

ZENMU Engine

現在：フロー型 » 将来：ストック型

ZENMU Engineを各社の製品・サービスに組み込むプログラムとして外部提供、
オープンイノベーションを通じて新事業・新サービスを協創、ロイヤリティ収益を獲得

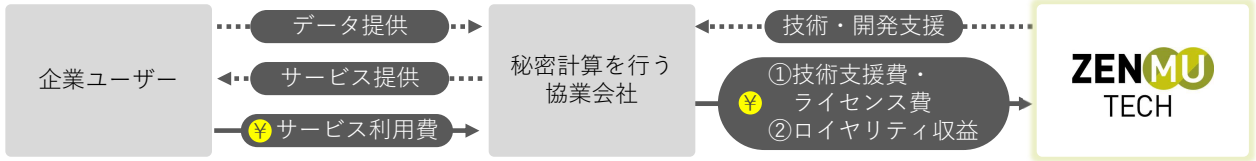


秘密計算ソリューション

QueryAhead®

現在：フロー型 » 将来：ストック型

PoCや受託開発などで協業会社による事業化支援を実施しつつ
将来的には協業会社からロイヤリティ収益獲得



Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

財務ハイライト

損益計算書（単位：百万円）	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
売上高	232	440	648	851
売上原価	23	30	60	85
売上総利益	208	410	588	766
販管費	332	363	512	622
営業利益	△124	46	76	144
経常利益	△113	56	84	160
当期純利益	△115	72	78	155

貸借対照表（単位：百万円）	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
資産合計	128	577	656	1,286
流動資産	120	536	603	1,173
固定資産	8	41	53	113
負債合計	284	420	419	471
流動負債	259	402	407	471
固定負債	25	18	11	-
純資産合計	△155	156	237	814
自己資本比率（%）	-	26.2%	35.4%	62.9%

キャッシュフロー計算書（単位：百万円）	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
営業キャッシュフロー	51	9	242	△27
投資キャッシュフロー	△2	△17	△21	△65
財務キャッシュフロー	△7	232	△22	373
フリーキャッシュフロー	48	△8	221	△92
現金同等物の期末残高	83	308	507	788

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.

Disclaimer（免責）

本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
それらリスクや不確実性には、業界並びに市場の景況、金利や物価、為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

Copyright © 2026 ZenmuTech, Inc All Rights Reserved.